

府中市新庁舎建設基本設計の概要

平成 2 8 年 1 1 月

府 中 市

目次

基本方針	P. 1
計画概要	P. 2
デザインコンセプト	P. 3
配置計画・外構計画	P. 4
階層計画	P. 5
平面計画	P. 6
立面計画	P. 10
断面計画	P. 11
防災計画	P. 12
環境計画	P. 15
ユニバーサルデザイン計画	P. 16
サイン計画	P. 16
昇降機計画	P. 16
構造計画	P. 17
電気設備計画	P. 18
機械設備計画	P. 18
外観・内観イメージパース	P. 19

基本方針

□設計の基本方針

はじめに
現在の市庁舎は、西庁舎が昭和34年、東庁舎が昭和45年、北庁舎が昭和62年にそれぞれ建設され、このうち一番古い西庁舎については、現在、多摩地域において最も古い庁舎となっています。

また、平成21年度に実施した東・西庁舎の耐震診断では、その一部が耐震基準を満たしておらず、「地震に対して危険性がある」との結果が出ています。庁舎内には市民生活に関わる多くの機能や重要な情報が集積されており、これらを守り、市役所としての機能を維持しながら、防災・災害復興拠点としての役割を果たすには大きな不安があります。

平成23年度に、現庁舎の問題点を整理し、庁舎建設の基本的な考えをまとめた府中市庁舎建設基本構想を策定しました。また、平成24年度には、当該基本構想に基づき、庁舎建設に係る整備パターンを比較した府中市庁舎整備比較検討結果を取りまとめ、現敷地を拡張した上で、全ての庁舎を建て替える方針を示しました。

平成25年度には、府中市庁舎建設基本計画市民検討協議会、府中市庁舎建設基本計画職員検討会からの意見をまとめた提言書及び報告書が市に提出されました。パブリックコメントや市民説明会の開催などを通して、市議会をはじめとする多くの市民の方々からいただいたご意見も踏まえ、府中市庁舎建設基本計画を策定しました。

新庁舎の設計は、基本理念である「市民に親しまれ、府中らしさを受け継ぐまちづくりの拠点となる庁舎」の実現を目指し、平成26年度に策定した「府中市庁舎建設基本計画」で掲げた「府中らしい庁舎3つの柱」と4つの基本方針・整備方針に基づいた、本市の目指す庁舎を計画します。

□基本理念

『市民に親しまれ、府中らしさを受け継ぐまちづくりの拠点となる庁舎』

□府中らしい庁舎3つの柱

3つの柱を指標とし、府中らしい庁舎を実現します。

- 京王線府中駅とJR府中本町駅のにぎわいをつなぐ庁舎
- 市民と行政との協働を支える庁舎
- 歴史あるまち、魅力あるまちを発信する庁舎

□基本計画の基本方針・整備方針

1. 市民に親しまれる開かれた庁舎

- 市民サービス向上につながる庁舎の機能
- 市民が集う開かれた庁舎を実現するための機能

2. 環境に配慮した安全な庁舎

- 防災・災害復興拠点機能
- 環境との共生に関する機能

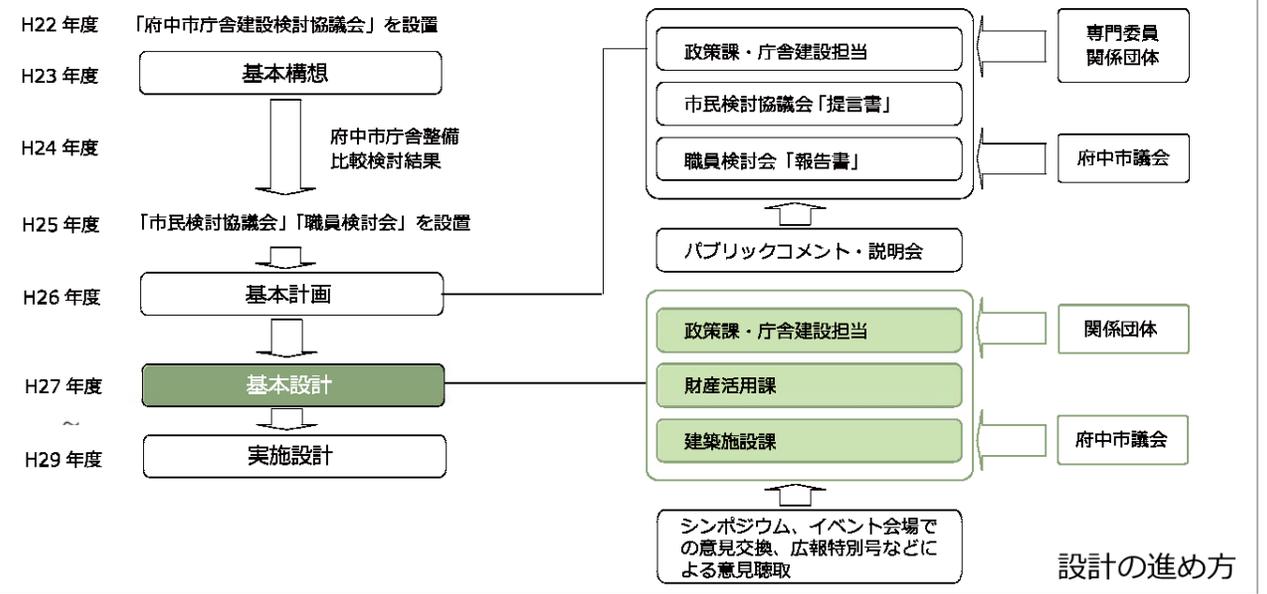
3. 市民サービスのために使いやすい効率的な庁舎

- ユニバーサルデザインに関する機能
- 行政執務機能及び執務環境に関する機能
- 将来の変化に対応できる機能

4. まちづくりとの連携を担い、市民が誇りを持てる庁舎

- 市民参加のまちづくりや市民協働を支える機能
- 地域の交流及び発展への貢献

基本設計への反映



□基本設計の基本方針（基本計画の方針を具現化）

1. 市民に開かれ、人々の多彩な活動が生まれる庁舎

- 「おもや」の低層階に来庁者の利用が多い部署を集約配置し、サービスを提供しやすい施設とします。「はなれ」の低層階には多彩な市民活動や市民協働を支える多目的スペース・ラウンジを計画します。
- 「通り庭」に面して庁舎機能や市民協働の場を設け、市役所に訪れた人はもとより「通り庭」を散歩道にする人など、誰もが気軽に訪れやすく、多様な活動が生まれる開かれた庁舎を計画します。

2. 災害時の庁舎機能を確保できる庁舎 環境負荷低減に配慮した庁舎

- 大地震などの災害発生時にも行政機能を継続維持できる庁舎とします。災害対策本部関連諸室の集約化、備蓄倉庫の設置、「通り庭」を有効活用した防災広場を計画します。
- 十分な耐震性を備え、構造方式には最も信頼性の高い免震構造を採用します。
- 環境負荷の低減や省エネルギーに配慮した環境にやさしい庁舎とするため「自然通風」「自然採光」「高効率機器」「再生可能エネルギー利用」などの省資源・省エネ・長寿命の設備を導入します。

3. 時代やニーズの変化に対応できるフレキシブルな庁舎

- 庁舎内へのスムーズな動線、分かりやすいサイン計画、充実したトイレ計画により、誰もが安心して利用できる施設計画とします。
- 高度情報化に対応できる庁舎とし、事務の効率化を図り、質の高い市民サービスを提供します。
- 執務空間は大きく広がるフレキシブルな空間とします。機能性と経済性のバランスを取りながら、多様なニーズに対応できる可変性と更新性に優れた計画とします。

4. 府中の魅力を象徴する、まち、自然と一体になった庁舎

- 庁舎の主たる機能を担う「おもや」と、庁舎機能を補完し、市民協働を支える「はなれ」、そして市民に開かれた「通り庭」で構成します。これら3つの空間が絡み合い、補い合うことで、市役所としての機能性を十分に発揮しながらも市民に開かれ、自然と一体になったこれからの時代を象徴する庁舎となります。
- 「通り庭」は市民に開かれた府中らしい多彩な活動が繰り広げられる場です。大國魂神社、京王線府中駅とJR府中本町駅の周辺のにぎわいをつなぐ役目を果たす、市役所のシンボル空間となります。

計画概要



案内図

□新庁舎敷地概要

計画地	東京都府中市宮西町2丁目24番地
敷地面積	約 11,900 m ²
法定建ぺい率	80%
法定容積率	500%
周辺道路現況幅員	東側： 4.5m (市道) 南側： 6.5m (市道) 西側： 16.0m (都道) 北側： 3.6m (市道)

□法的規制

区域指定	都市計画区域
用途地域	商業地域
防火指定	防火地域
高度地区	なし
地区計画	なし
日影規制	指定なし
景観計画	景観形成推進地区 (大國魂神社・けやき並木周辺) 一般地域 (駅周辺の商業地)

□新庁舎建物概要

主要用途	庁舎
構造種別	免震構造 (地下1階柱頭免震)・鉄筋コンクリート造
基礎形式	杭基礎
建ぺい率	約 60%
容積率	約 280%
建築面積	約 6,600 m ² (計画暫定面積)
延床面積	約 33,500 m ² (計画暫定面積)
階数	「おもや」 地下1階 地上6階 「はなれ」 地下1階 地上4階
高さ (最高高さ)	「おもや」 約 30m 「はなれ」 約 20m
駐車場	地下駐車場 約 180 台
駐輪場	地上設置 約 700 台

デザインコンセプト

「にぎわいをつなぐ現代の宿場町」

けやき並木に象徴される自然の美しさ、大國魂神社などの歴史的資産、そして市民の活気といった府中の魅力を最大化する庁舎を目指します。

府中宿を始めとしたかつての宿場町は、まちをつなぐ街道沿いに存在し、旅籠、商店、茶屋などが軒を連ね、常に人が行き交い、にぎわいにあふれていた場所でした。そこは、旅の休息地であり出発点でもありました。

府中市庁舎もまた府中駅と府中本町駅のにぎわいをつなぐ場所にあります。ここに、日常の通り道であり、また、用があってもなくても立ち寄れる、常に人の活気にあふれる「現代の宿場町」のような庁舎をコンセプトとします。

□まち並みと呼応する「おもや」と「はなれ」

限られた敷地で、仮設庁舎を必要としない合理的な建替計画とするとともに、周辺のまち並みと呼応する計画とします。

周辺環境へ配慮し、低層としながらも、必要な執務面積を1期工事の「おもや」で確保し、基本的な庁舎機能を賄える計画とします。

庁舎機能移転後、図書館などの機能が入る「はなれ」を大國魂神社や住宅地のスケールに合わせて建設します。「おもや」と「はなれ」は、開かれた広場である「通り庭」により、緩やかにつながります。

新庁舎は、敷地条件に対し、合理的でまちとの親和性の高い構成とします。

□多様な活動を支えるフレキシブルな構成

「おもや」と「はなれ」があることによって、様々なサイズ(S・M・L)の空間が用意されます。執務エリアは組織の変更にも容易に対応できる大空間とし、主に中小の部屋が連なる「はなれ」は、将来的に間仕切り方を変えることもできます。庁舎としての使い勝手、これからの変わりゆく状況に対応できる2つの異なるフレキシビリティを備えた庁舎とします。

□四季を映し、憩いの場となる「通り庭」

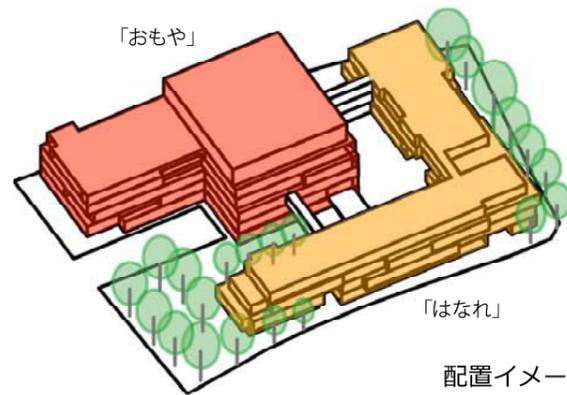
通り庭は、季節によって移り変わる、市民の営みと自然を感じられる場所です。けやき並木から大國魂神社の社へと連なる緑を敷地内まで連続させることにより、まちの自然と一体になった広場としています。

また、同時に、市民の多彩な活動・イベントを行う場となるようなスペースを確保します。

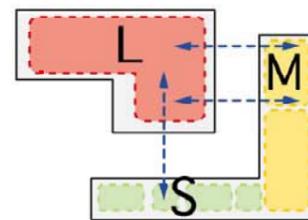
一年を通して多様な表情を見せる府中の自然と祭りを始めとしたいいきいきとした市民活動の両方を象徴する府中市のシンボル空間とします。



府中駅と府中本町駅をつなぐ庁舎



配置イメージ



時代の変化に対応するフレキシブルな構成



大國魂神社から連続する緑



鳥瞰イメージパース (敷地南西側より)

□府中宿を受け継ぐ軒の連なり

かつての宿場町の軒が連続する印象的な風景を継承します。

新庁舎では、建物形状を周辺のまち並みと呼応するように適度に分節し、重ねあわせることで、テラスや連続する軒下空間をつくります。軒裏は多摩産の木材で仕上げることで、樹木と親和性の高い温もりのある質感とし、店先で休憩したり、雨宿りをしてきた宿場町の風景を再現します。



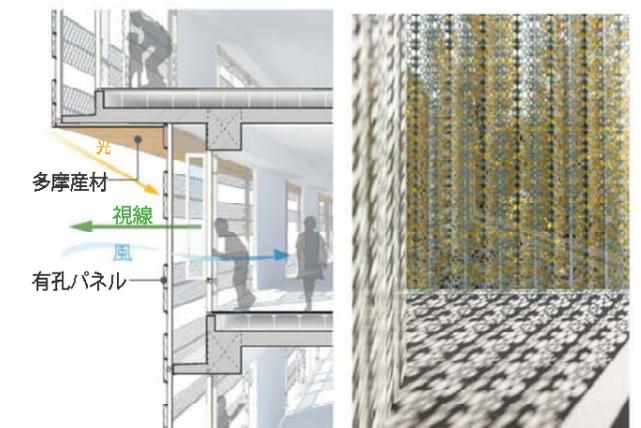
宿場町の風景 木材で仕上げた軒の連なり

□外と内をやわらかくつなぐ有孔パネル

格子戸や看板が連なる様子もまた宿場町の印象的な風景の一つです。格子戸は、内外を隔てながらも、通風や採光、人の気配を伝える役割を持っていました。

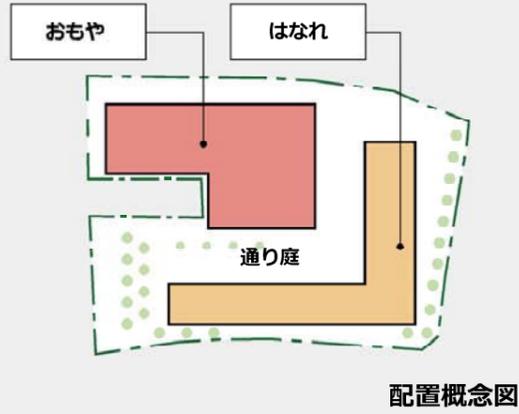
外装材として使用する有孔パネルは、現代の格子戸です。風や光、視線をやわらかく透過し、建物内には木漏れ日のような光が入ってきます。

場所によって開口率や密度、貼り方を変えることで、環境負荷低減にも効果的であり、プライバシーへの配慮を行うことも可能です。



有孔パネルのイメージ (室内より)

□配置計画の考え方



「おもや」
 庁舎の主たる機能を担います。

「はなれ」
 庁舎機能を補完し、市民協働を支えます。

「通り庭」
 「おもや」と「はなれ」をつなぎ、市民の多彩な活動を支える場です。



- ・3つのL字形をした空間が絡み合い、補い合い、新しい市役所を生み出します。
- ・人の流れをつくり出し、一体感のあるにぎわいを生み出します。
- ・毎日の通勤で通り抜けたり、散歩の途中で休憩したり、市民活動の舞台になったりと、府中らしい多彩な活動が繰り広げられる市民に開かれた場です。

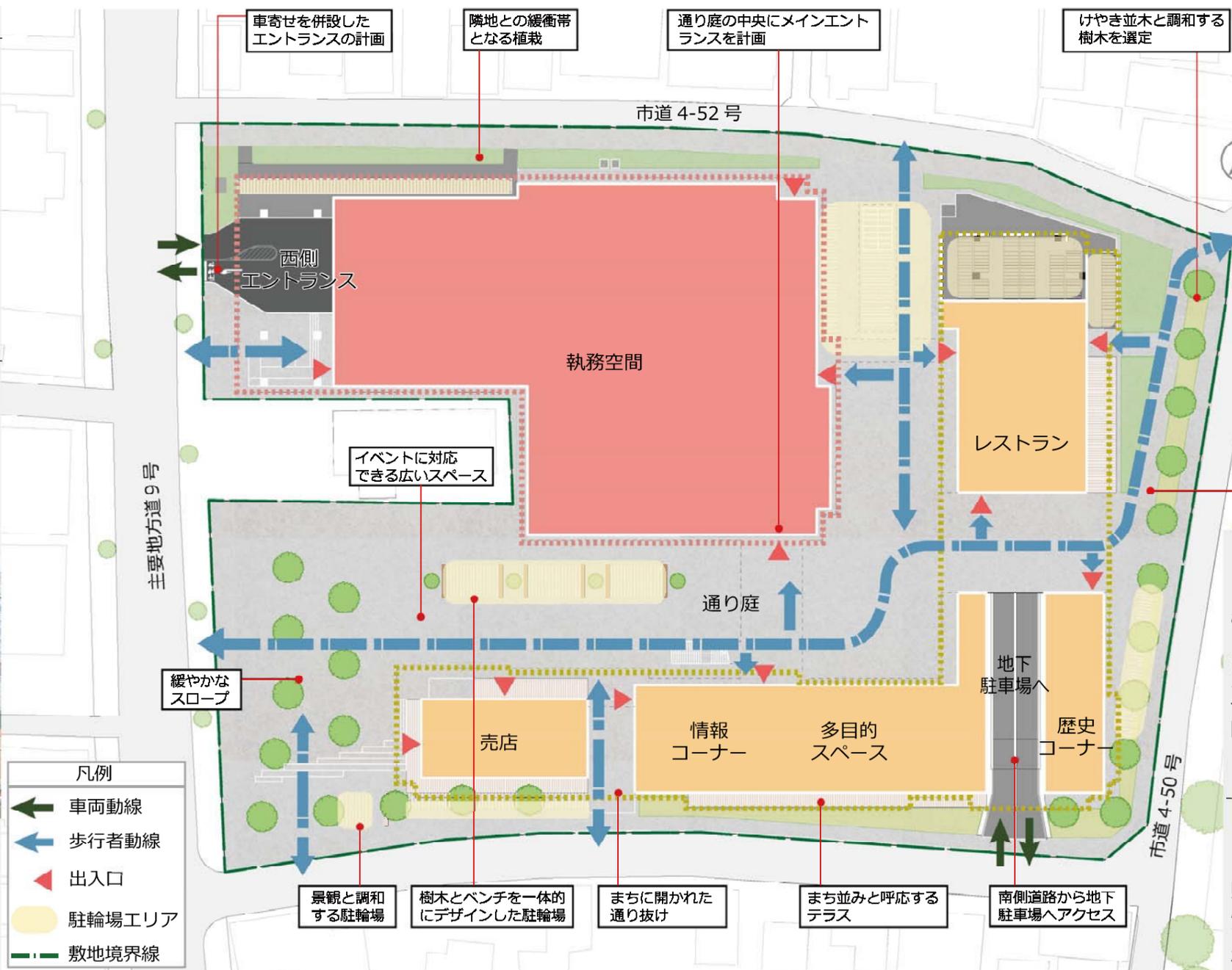
□動線計画

車両動線

・南側に地下駐車場へアクセスする出入口を設け、円滑な進入、退出ができる計画とします。

歩行者動線

・「通り庭」を介して歩行者がアクセスできる計画とします。また、歩車分離を基本とした安全な動線計画とします。



□敷地に即した植栽計画

敷地周囲の条件の違いに対し、場所ごとに適切な樹種を選定します。

- [北側] プライバシー配慮に有効な中高木の中から、日影にも強い樹種を選定します。
- [東側] 大國魂神社の杜と親和性の高い高木を中心に選定します。
- [南側] 低木を選定し、「はなれ」とまちのつながりを分断しない計画とします。
- [西側] 高木を選定し、歩行者の視線で「通り庭」と府中街道がつながる計画とします。



□樹木、人と寄り添う駐輪場

あらゆる方向からの来庁者を迎えられるように、敷地の周囲に駐輪場を分散して設置します。また、樹木と一体的に駐輪場を計画するとともに、緑を眺めるベンチを設けて人々の憩いの場をつくります。駐輪場が、ただ自転車をとめるだけの場所ではなく、人々の活動と重なり合い、魅力的な風景をつくりだすことを目指します。



通り庭の駐輪場イメージ

□イベント開催への対応

様々な祭りやイベント時に、テントを展開したり、車両を一時的に乗り入れたることを想定し、広いスペースを確保する計画としています。



樹種	仕上げ凡例
高木A (H=7m)	タイル貼り
高木B (H=3m)	コンクリート金ゴテ仕上げ
緑地帯 中高木	アスファルト舗装
低木	再生木デッキ

□大國魂神社と連続する外構仕上げ

「通り庭」は、大國魂神社の参道を引き込むようにタイル貼りを基調とした仕上げとします。また、その他の部分についても、塗装などを極力行わない、自然そのものの質感を大切に素材を選定します。防滑性など、バリアフリーにも配慮し、誰にとっても快適に通ることができる場所とします。

□まちとつながる照明計画

「通り庭」には、軒の連なりに沿うように照明を配置し、夜間でも街路のように、安心して通行することができるようにします。また、敷地の中からほんのりと光が漏れ出し、まちの明かりと連続する計画です。

階層計画

□階層計画の考え方

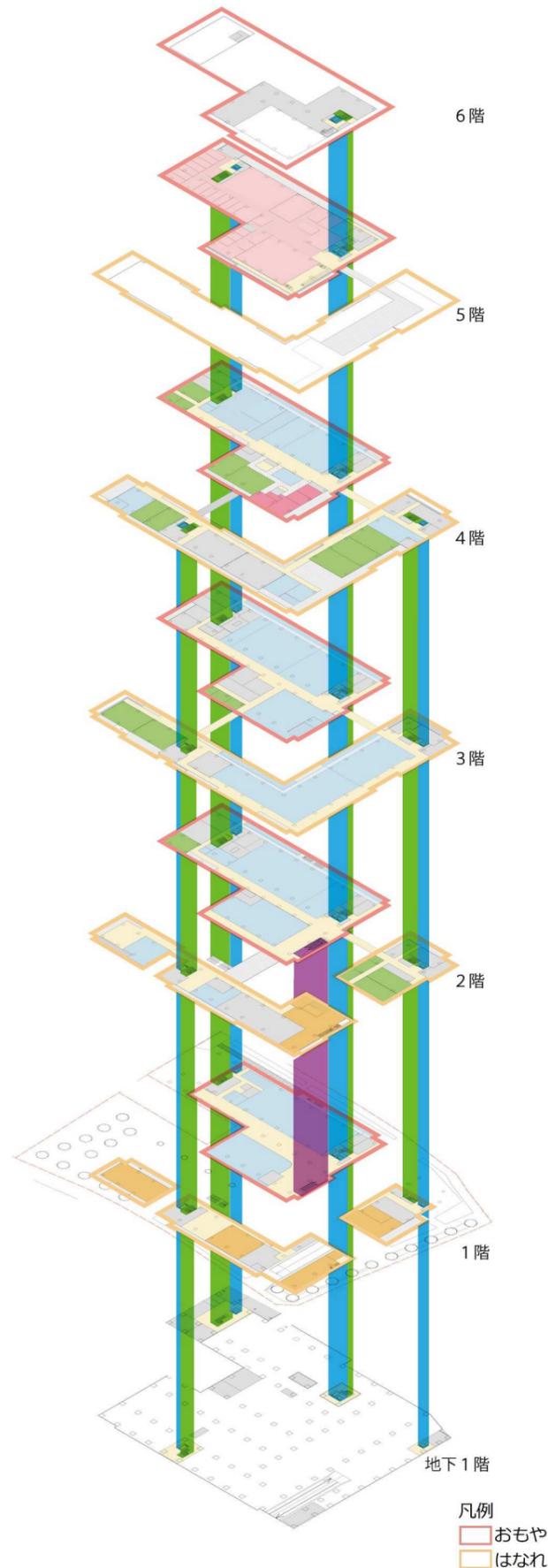
6階	おもや	免震構造の地上階に重要設備機器を配置し、庁舎機能が安全に機能する計画とします。
	はなれ	
5階	おもや	5階は議会機能を集約配置し、大空間の議場スペースを確保します。また、傍聴・展望ロビーを配置します。
	はなれ	
4・3階	おもや	4階は市長室、関連諸室、災害対策本部室など、災害時の指揮系統の連携がしやすい計画とします。
	はなれ	3階はフロア全体に執務エリアを配置し部署間の連携が図りやすい回遊性の高いフロアを計画します。
2・1階	おもや	1・2階は市民の利用頻度の高い窓口・相談・案内機能を中心に配置します。
	はなれ	1・2階は市民協働エリアを中心に配置します。また、歴史コーナー・図書館を配置し、市民に開かれた場をつくります。
地下1階	おもや	地下1階は来庁者用・公用車用駐車場を配置します。
	はなれ	

□縦動線

- エレベーター
「おもや」3基「はなれ」2基
- 階段
- エスカレーター
「おもや」1～2階 2基（上り1基 下り1基）

□フロアゾーニング

- 執務エリア
- 共用スペースエリア
- 会議室エリア
- 議会エリア
- 市民利便スペースエリア
- その他諸室エリア



機械室エリア	6階	おもや	機械室
		はなれ	
議会・展望エリア	5階	おもや	議場 委員会室 議長室 副議長室 会派室 正副議長応接室 議員応接室 議会図書室 議会ロビー 議会事務局（庶務課 議事課） 前職待遇者控室 傍聴・展望ロビー
		はなれ	展望テラス（屋上）
窓口・執務エリア	4階	おもや	市長室 副市長室 市長公室 庁議室 執務エリア（政策課 財政課 総務管理課 職員課 財産活用課 建築施設課） 会議室
		はなれ	執務エリア（防災危機管理課 選挙管理委員会事務局 監査事務局） 災害対策本部室 研修室 会議室 職員健康管理室
窓口・執務エリア	3階	おもや	執務エリア（契約課 住宅勤労課 経済観光課 環境政策課 地域安全対策課 ごみ減量推進課 子育て支援課 保育支援課 児童青少年課 総務課 学務保健課 指導室） 厚生室 会議室
		はなれ	執務エリア（文化振興課 ふるさと文化財課 生涯学習スポーツ課 管理課 計画課 土木課 公園緑地課 下水道課 建築指導課 地区整備課） 会議室
窓口・執務エリア	2階	おもや	執務エリア（広報課 保険年金課 市民税課 資産税課 納税課 生活援護課 出納課） 会議室
		はなれ	執務エリア（広報課 市民活動支援課） 市民協働ラウンジ 図書館 会議室 防災備蓄倉庫
窓口・執務エリア	1階	おもや	執務エリア（総合窓口課 地域福祉推進課 高齢者支援課 介護保険課 障害者福祉課） ロビー 守衛室（防災センター）
		はなれ	情報コーナー 多目的スペース 歴史コーナー 視聴覚スタジオ 売店 レストラン
駐車場エリア	地下1階	おもや	地下駐車場 バイク駐車場
	はなれ		

※ 執務エリアに記載されている部署名は現時点における想定を参考記載したものです。

平面計画

□全体平面計画の考え方

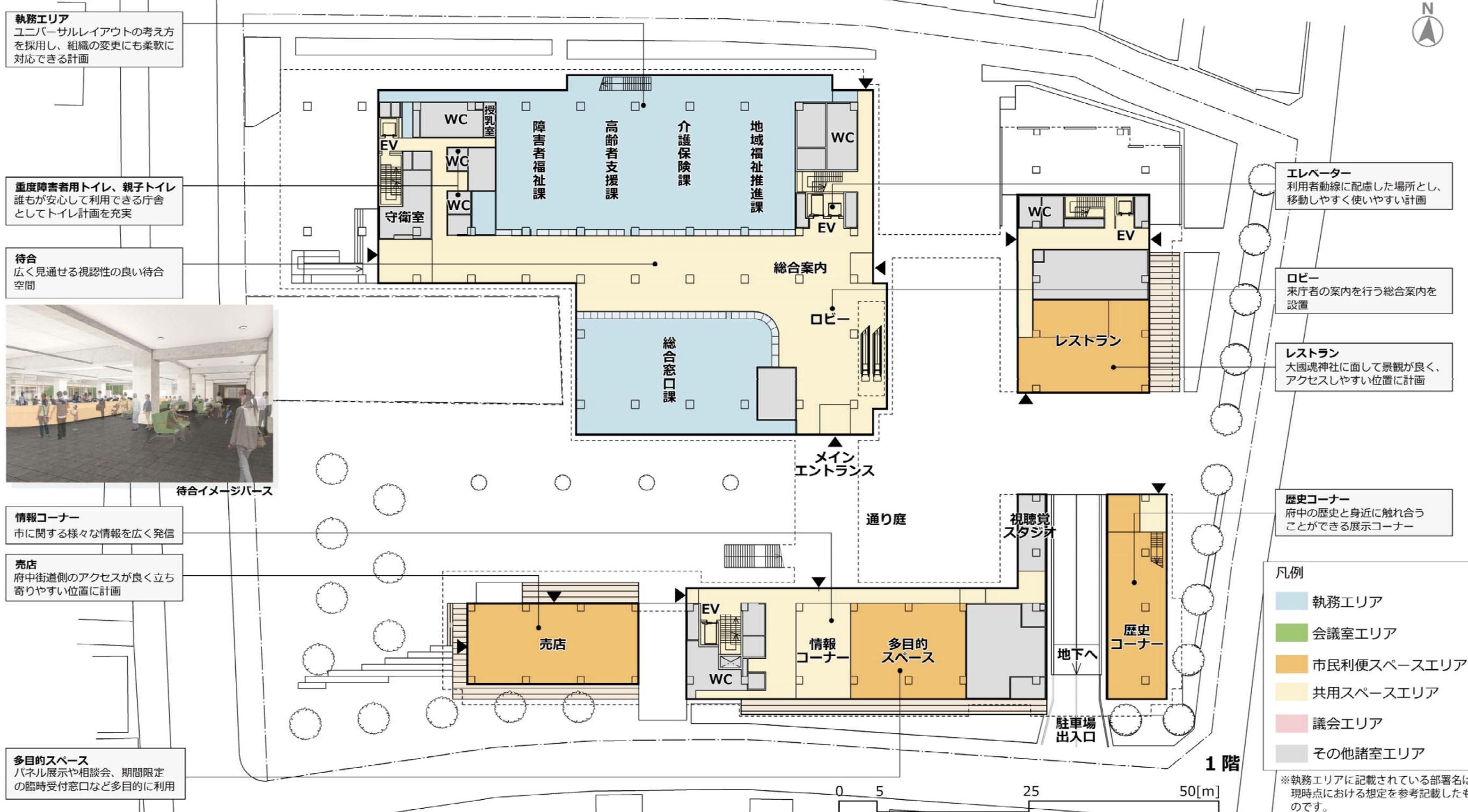
新庁舎は庁舎の主たる機能を担う「おもや」、庁舎機能を補完し、市民協働を支える「はなれ」で構成します。「おもや」は東西にトイレや階段などのコアを集約し、中心にオープンな窓口・執務空間を計画します。「はなれ」は南北にトイレや階段などのコアを集約します。低層階は市民に開かれたエリア、中層階は庁舎機能を補完するエリアとして計画します。エレベーターは利用者動線に配慮した場所に配置します。また、来庁者の利用が多い部署を1階と2階に配置し、エスカレーターでつなぎ、移動しやすく、使いやすい計画とします。

1階 おもや

- ・総合案内やエレベーター、エスカレーター、階段は、出入口から分かりやすい位置に計画します。
- ・メインエントランスの近くに十分な広さのロビーを配置します。

はなれ

- ・売店やレストランは、アクセスの良い位置に計画します。
- ・情報コーナー・多目的スペース・歴史コーナーを設置し、市民が気軽に、様々な目的で訪れやすい計画とします。



平面計画

2階 おもや
 ・執務室を南北に配置し、エレベーター、エスカレーターから分かりやすい位置に各窓口を計画します。

はなれ
 ・「おもや」と「はなれ」をつなぐ屋内ブリッジに近接して、会議室を集約配置します。執務空間から近い位置に計画することで利便性の向上を図ります。

3階 おもや・はなれ
 ・3階はフロア全体に執務エリアを配置し、屋内ブリッジでつなぐことにより、回遊性が高く、部署間の連携が図りやすい計画とします。



0 5 25 50[m]

※執務エリアに記載されている部署名は現時点における想定を参考記載したものです。

■ 執務エリア	■ 共用スペースエリア
■ 会議室エリア	■ 議会エリア
■ 市民利便スペースエリア	■ その他諸室エリア



平面計画

4階 おもや

- 市長室・副市長室を設置するほか関連諸室を配置し、業務の円滑化を図るゾーニング計画とします。

はなれ

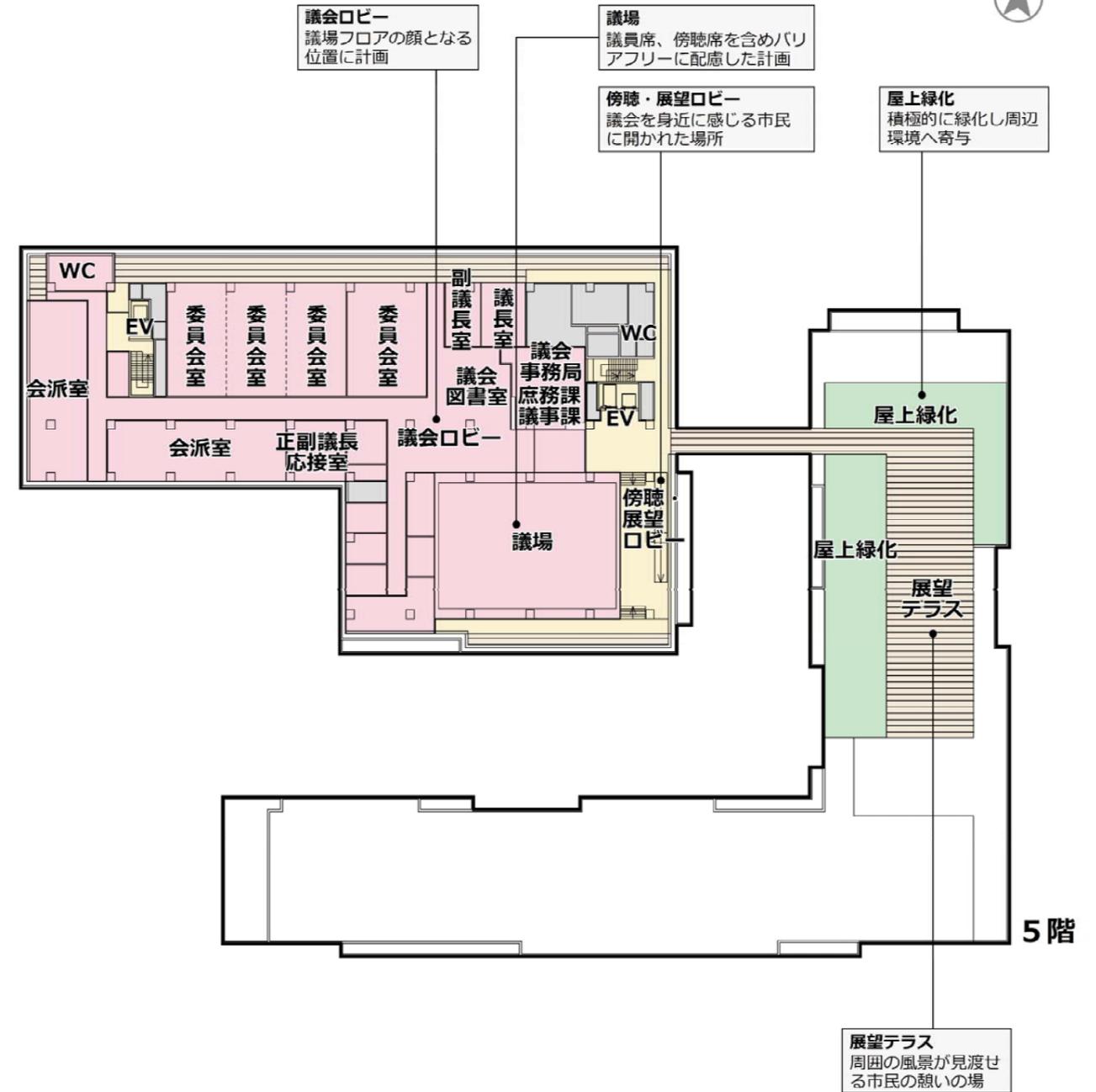
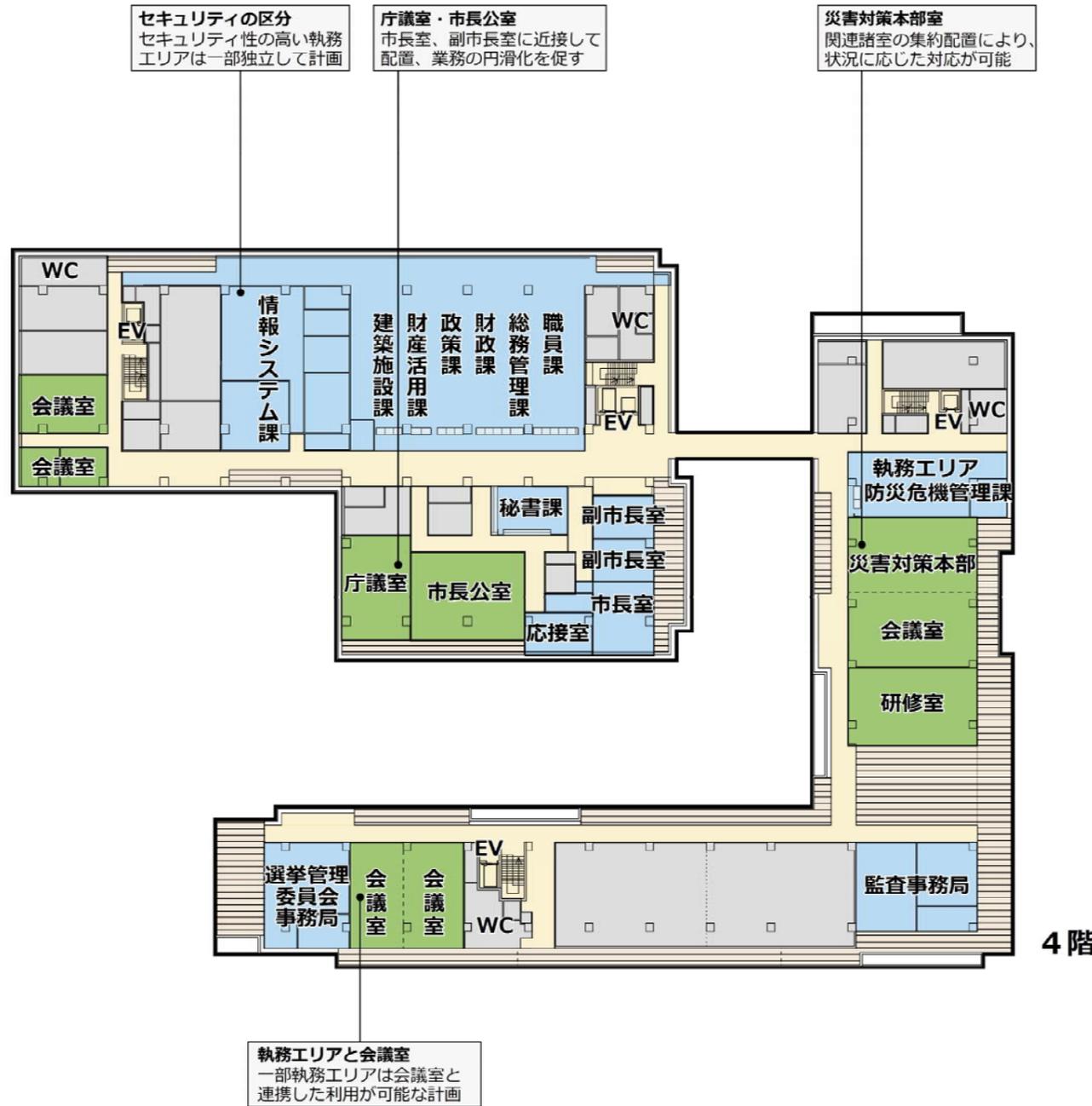
- 災害対策本部室を配置し、近接して会議室及び研修室を配置することで、災害時に災害対策本部が円滑に対応できるゾーニング計画とします。

5階 おもや

- 議場、議会機能等の関連諸室を集約して配置します。
- 傍聴・展望ロビーには、議場の中の様子が分かるディスプレイを設置します。議会を市民に開かれた身近な場所と感じられる計画とします。

はなれ

- 「はなれ」の屋上には、大國魂神社やけやき並木を始め、周囲の街並みが見渡せる展望テラスを計画します。ここは、開かれた市民の憩いの場所となります。



0 5 25 50[m]

※執務エリアに記載されている部署名は現時点における想定を参考記載したものです。

執務エリア	共用スペースエリア
会議室エリア	議会エリア
市民利便スペースエリア	その他諸室エリア

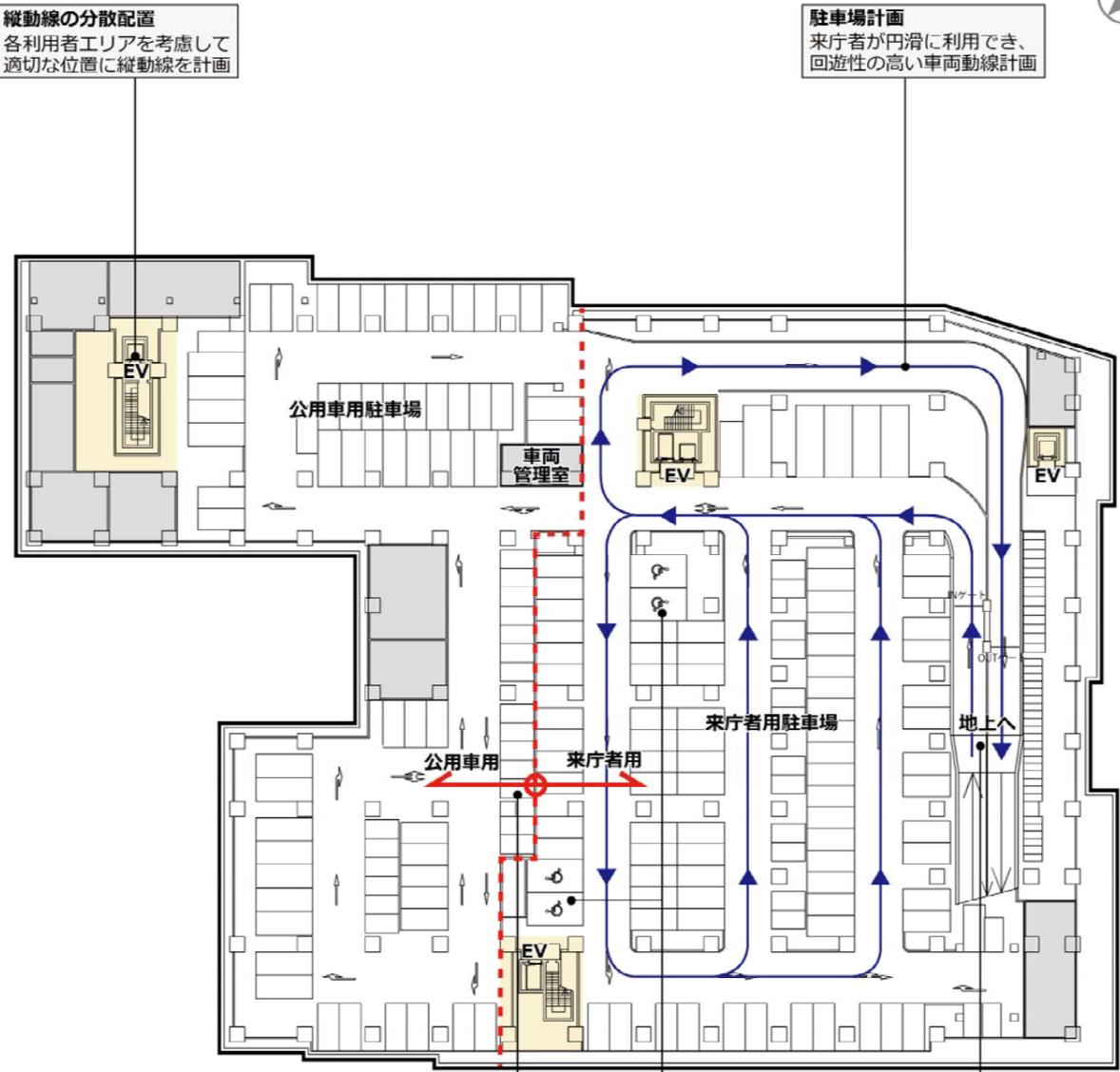
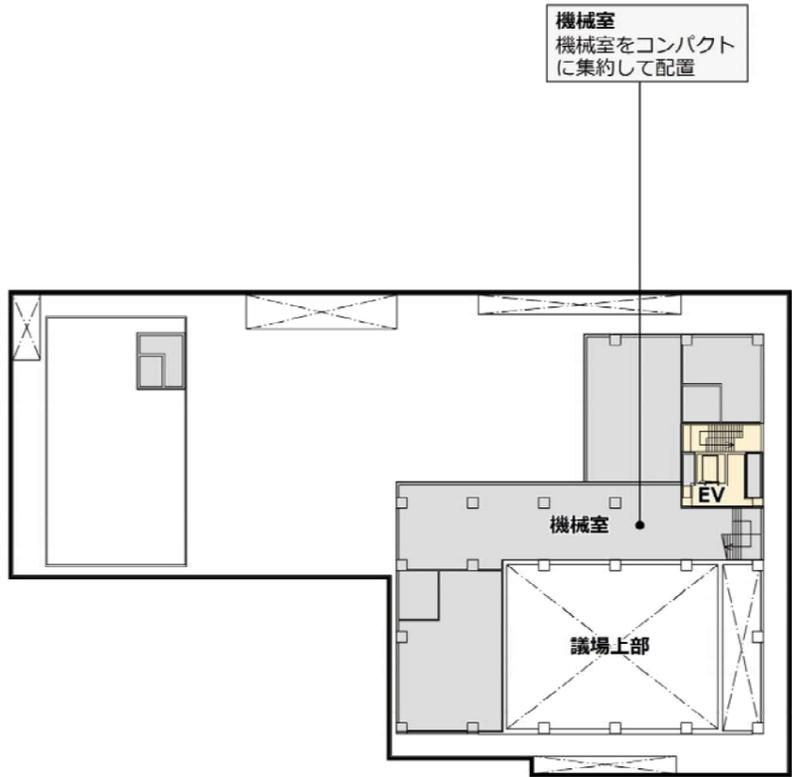
平面計画

6階 おもや

- ・免震構造の地上階に重要設備機器を配置し、庁舎機能が安全に機能する計画とします。

地下1階 地下駐車場

- ・地下駐車場の出入口は敷地南東部に整備します。地上部からスロープによって駐車場内へ入場します。
- ・駐車場出入口に近い東側に来庁者用駐車場を配置し、西側に公用車用駐車場を配置します。
- ・駐車場から地上部へは、雨に濡れず直接庁舎内へアクセスできるようエレベーター、階段を設けます。



6階

地下1階

明確なゾーニング
来庁者ゾーンと公用車ゾーンを明確に区分

障害者等用駐車場
おもや、はなれのエレベーター近くに配置

駐車場出入口
敷地南側市道に面した入口と地下駐車場を結ぶスロープ

0 5 25 50[m]

※執務エリアに記載されている部署名は現時点における想定を参考記載したものです。

執務エリア	共用スペースエリア
会議室エリア	議会エリア
市民利便スペースエリア	その他諸室エリア

立面計画

【外観デザインの考え方】

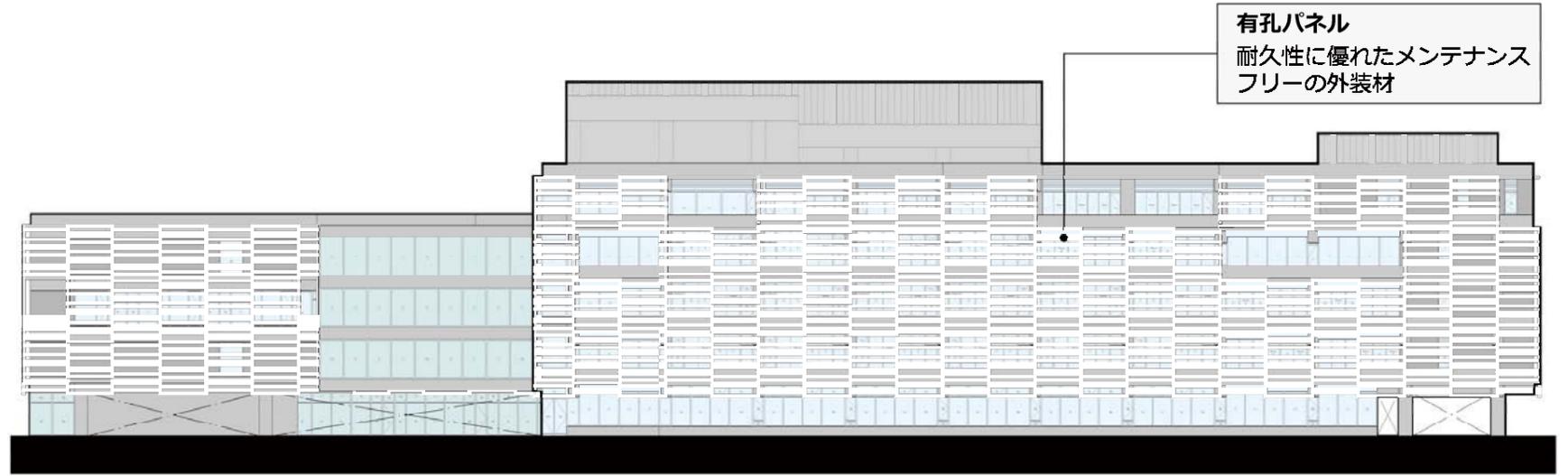
- ・ 建物を低層に抑え、外壁面を分節することで周辺のまち並みのスケールと調和した計画とします。
- ・ 建物の随所に軒下空間や通り抜けのピロティを設けて、市民の憩いの場や生活動線をつくります。
- ・ 日射や視線を制御する役割を担う有孔パネルで建物全体を包みます。有孔パネルの開口率を場所ごとに調整することで、日射負荷の低減や近隣建物へのプライバシーに配慮した計画とします。

【外装材料について】

- ・ 有孔パネルとは高耐食溶融亜鉛めっき鋼板に孔（あな）をあけた鋼板です。高耐食溶融亜鉛めっき鋼板は、耐久性に優れ長寿命かつメンテナンスフリーで、環境にも配慮した材料です。
- ・ 有孔パネルは周辺の景色を映し込み、大國魂神社の緑とも調和する素材です。室内には木漏れ日のような柔らかな光を透過します。



室内から見た有孔パネルイメージパース

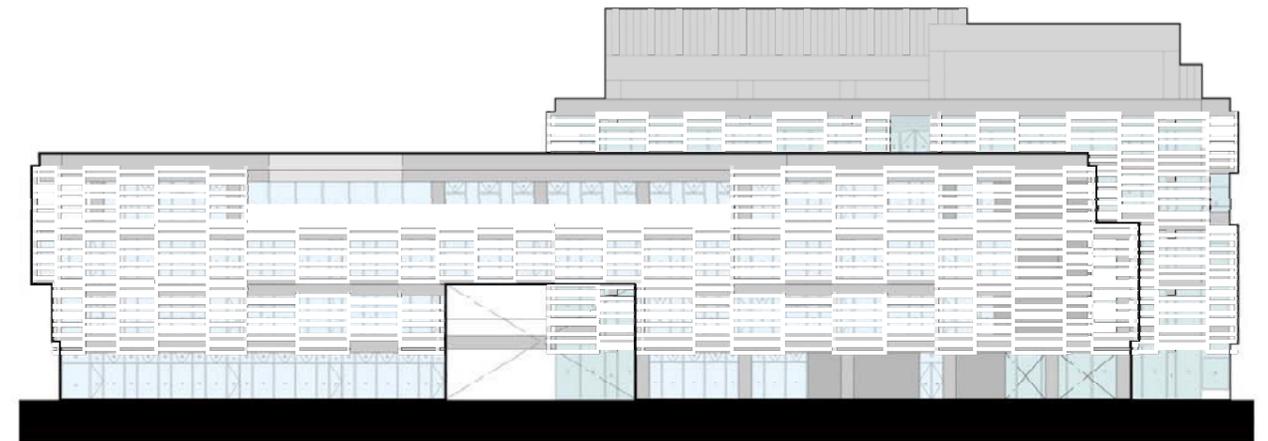


有孔パネル
耐久性に優れたメンテナンス
フリーの外装材

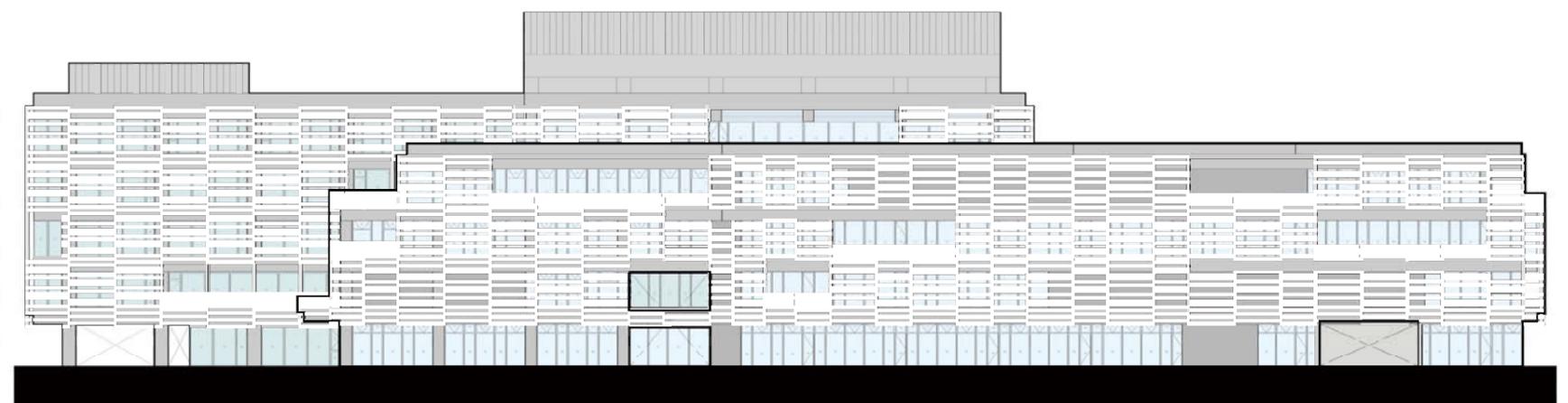
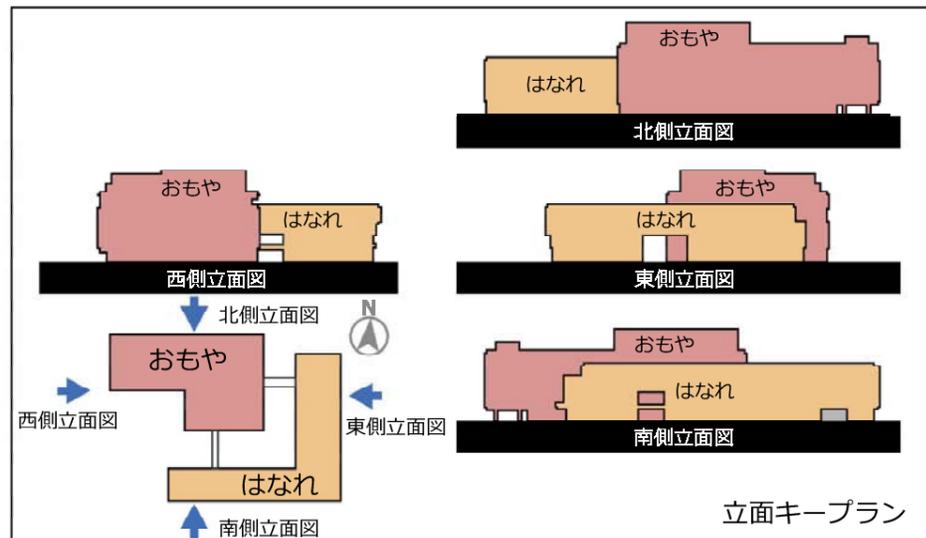
北側立面図



西側立面図



東側立面図



南側立面図

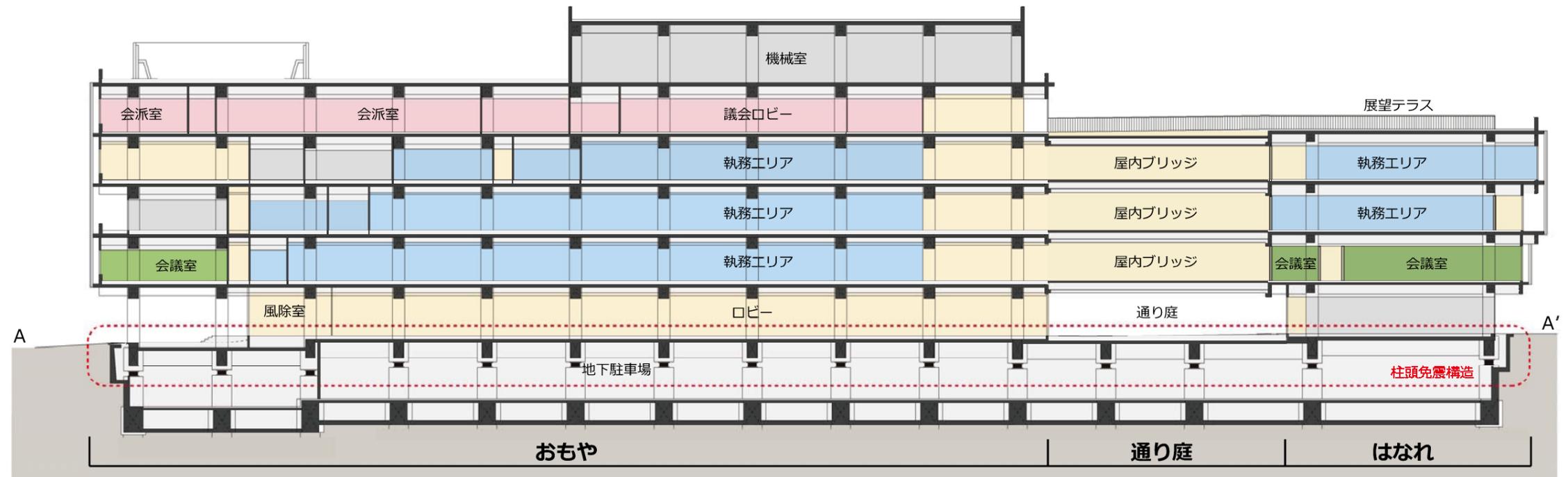
断面計画

【断面計画の考え方】

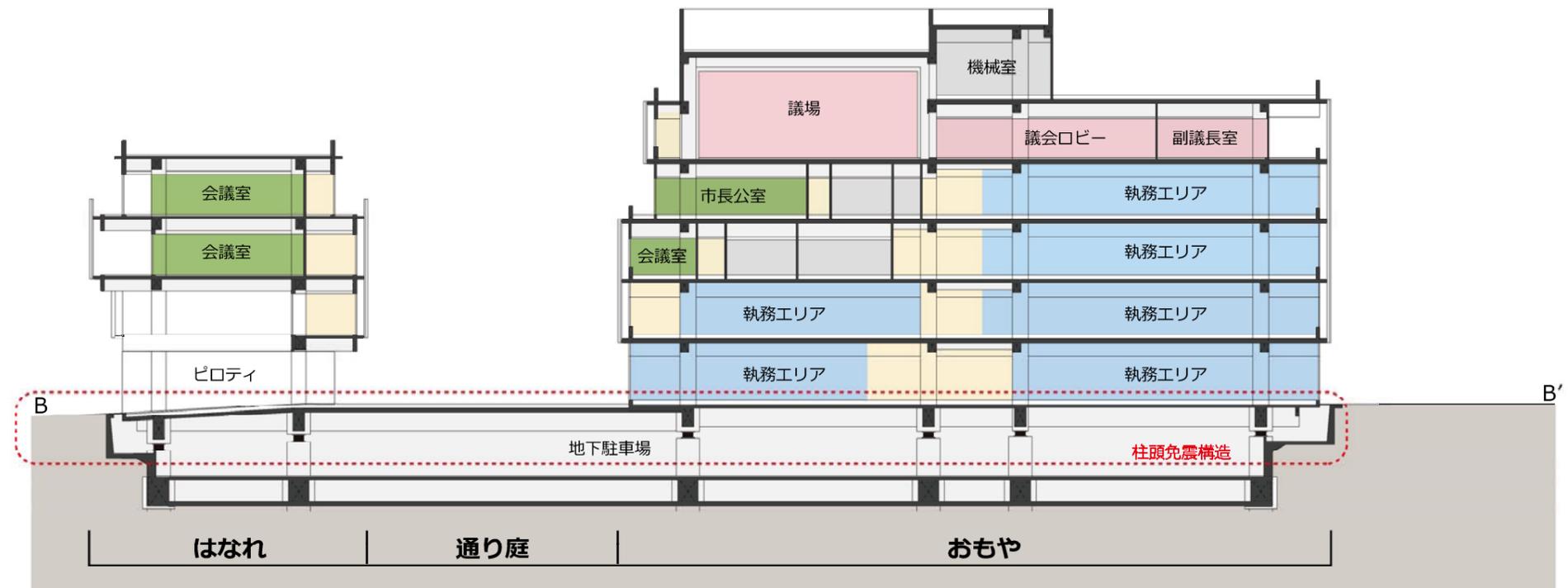
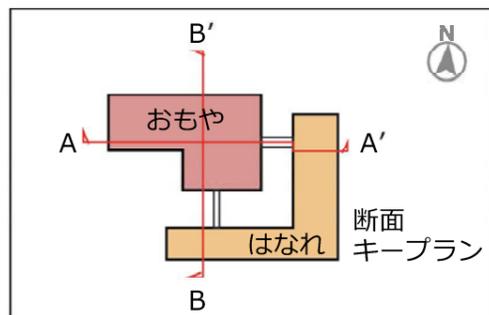
- ・地下駐車場の柱の上部に、柱頭免震構造を採用し、大規模地震の際にも庁舎機能を維持できる計画とします。
- ・大空間の「おもや」執務エリアにおいては、天井材を設けず、ダクトの不要な床吹出し空調システムの採用により、階高を抑えた計画とします。

□凡例

執務エリア	共用スペースエリア
会議室エリア	議会エリア
市民利便スペースエリア	その他諸室エリア



A-A' 断面図



B-B' 断面図

防災計画

□ **BCP庁舎** — 災害時に庁舎機能を確保し、BCP(事業継続計画)を支えるために採用する手法 —

1. 防災危機管理課と連携した災害対策本部の設置

- 「はなれ」4階に、防災危機管理課を設置します。また、隣接して災害対策本部、準災害対策本部を計画し、円滑な支援対応を可能とします。
- 災害対策本部と同階の「おもや」4階に市長室・副市長室を計画するなど、災害時には速やかに災害対策本部を設置することが可能なゾーニングとし、災害対策本部室には映像設備等の必要な機器類を整備します。

2. 必要な防災設備と自立性を備えたライフラインの確保

- 上水については、ペットボトルの備蓄による飲料水確保に加え、受水槽内の残量も活用できるよう緊急遮断弁と水栓を設置する計画とします。
- 雑用水については、雑用水槽の残量に加え、井戸からも供給可能な計画とします。
- 下水については、平常時は湧水槽とし、災害時には汚水貯留槽に切り替え、容量を確保する計画とします。
- 太陽光発電については、「はなれ」4階の災害対策本部の一部のコンセントに供給可能な計画とします。

- 通信については、通信回線の混雑や途絶に備えるため、引込みの多重化を検討します。また、高速・多回線が確保できる光ファイバー回線と電源が断絶しても活用できるメタル回線の多重化を図ります。
- 燃料については、災害時の停電に備え、自家発電機用燃料(3日分)を備蓄します。また、段階的に電気の負荷制限を設定し、備蓄燃料の消費の効率化を図ることで、稼働日数の延長を可能にします。

3. 救護活動支援スペースの確保

- 庁舎内部については、「おもや」1階ロビーを市民が一時的に待機できる場所として想定します。また、「はなれ」1階の多目的スペースを応急処置の場所に転換利用可能な計画とします。さらに、地下1階は災害活動支援エリアとして計画します。
- 庁舎外部については、「通り庭」に救援物資等の仮置スペースを計画します。「はなれ」のピロティ部分は、屋根付きの災害活動支援エリアとして計画します。

■ 災害想定

◇ 地震時

時間経過	想定在館人員	災害拠点として果たすべき機能	新庁舎に整備する設備・システム									
0日 震災発生時	1000人 ・職員 900人 ・来庁者100人	・安全確保 ・無被害	免震構造 免震構造	高耐震化 建築基準法×1.5	無天井化 (おもやの一部)	家具転倒防止対策 低い家具,家具固定	明確な避難動線計画	自家発電機 72時間運転 UPS設置 移動電源車対応	電源2系統受電 (本線・予備電源)	通信引込み 2ルート化 防災無線 (通信の多重化)		
0 1日	1000人	・災害対策本部設置 ・情報収集 発信 ・インフラ確保	災害対策本部機能 非常電源, 情報端末 放送設備	災害備蓄倉庫 食料, 飲料水 テント, 毛布	飲料水確保 受水槽 ペットボトル	便所確保 井水利用 汚水貯留槽	電源確保 非常発電機 燃料タンク 太陽光発電	照明確保 非常電源照明 自然採光	室内環境 自然通風 非常電源	情報発信 デジタル掲示板 情報共有掲示板 放送設備	弱者対応 スペースの確保 高齢者, 障害者 負傷者	
2 3日	900人	・各避難場所 関係機関 ネットワーク構築 ・安否情報発信 ・炊き出し支援 ・重要業務開始 ・応援者受入										泊り込み職員 対応 仮眠室, シャワー
4 7日	900人 (帰宅可能な職員は夜間帰宅)	・物資受入れ 配分 ・交通復旧開始 ・インフラ復旧開始 ・ボランティア受入					燃料補給	燃料補給	燃料補給	燃料補給	受入れ先への移送	
8 31日	900人 (帰宅可能な職員は夜間帰宅)	・通常業務開始 ・帰宅支援			給水車	汚水回収	送電復旧	送電復旧	送電復旧	送電復旧		
					水道復旧	下水道復旧						

◇ 水害時 ※集中豪雨

- 計画地は、ハザードマップで定める浸水エリアに該当しない地域です。集中豪雨における水害を想定して計画します。
- 集中豪雨対策として、『府中市地域まちづくり条例に関わる排水設備』の基準以上を設けた計画とします。
- 重要設備の水没対策のため地上部分の6階に機械室を設置し、集中豪雨時にも庁舎機能が安全に機能する計画とします。

防災計画

■ 防災計画 ゾーニング図

○ 災害発生後、継続した災害活動が可能な庁舎

【インフラの確保】

- ・非常用発電機、給排水などの設備は在館者3日分の容量で計画します。
(想定在館者：職員 900人 + 市民 100人)

【活動継続の計画】

- ・災害活動に必要とされる庁舎の機能を考え、役割に応じたエリア設定を計画します。各エリアに要する空調、給排水、照明、コンセント及びエレベーター1台が、非常用発電機によって稼働します。

【救援支援活動の計画】

- ・1階の利用しやすい階に、ロビー・多目的スペースを計画し、状況に応じた支援活動が可能な計画とします。

○ 外部からの支援物資の受入れ先としての防災機能

【防災広場の計画】

- ・西側の府中街道に面した建物の外部空間に防災広場を計画し、救援物資等の仮置スペースを設け、救援物資の搬入スペースに活用できる計画とします。



救援物資搬入時イメージ



地下1階

飲料水（1人当たり1日3リットル）
1週間分の場合
1,000人 × 3リットル × 7日 = 21,000リットル

食料（1日3食）
1週間分の場合
1日目 クラッカー 3食 × 1,000人 = 3,000食
2日目 アルファ米 18食 × 1,000人 = 18,000食
以降
合計 クラッカー 3,000食、アルファ米 18,000食

毛布または寝袋
一人あたり1枚 = 1,000枚

■ 災害対策拠点エリア

- ・災害対策本部室と隣接する会議室などを中心に、市長室・副市長室も含め、災害対策の拠点として機能します。
- ・サーバー室、防災センター、電話交換室、電気室等の災害対策活動を支えるインフラバックアップを計画します。

■ 災害活動支援エリア

- ・災害対策本部室に近接して、仮眠室などに転用が可能なスペースを確保します。
- ・地下1階駐車場を屋内で多目的に使える災害活動支援スペースとして計画し、支援活動が十分に行えるスペースを確保します。
- ・「はなれ」1階の多目的スペースは、弱者や負傷者に対して一時的な応急処置を行うスペースとして転用が可能な計画とします。

■ 行政支援エリア

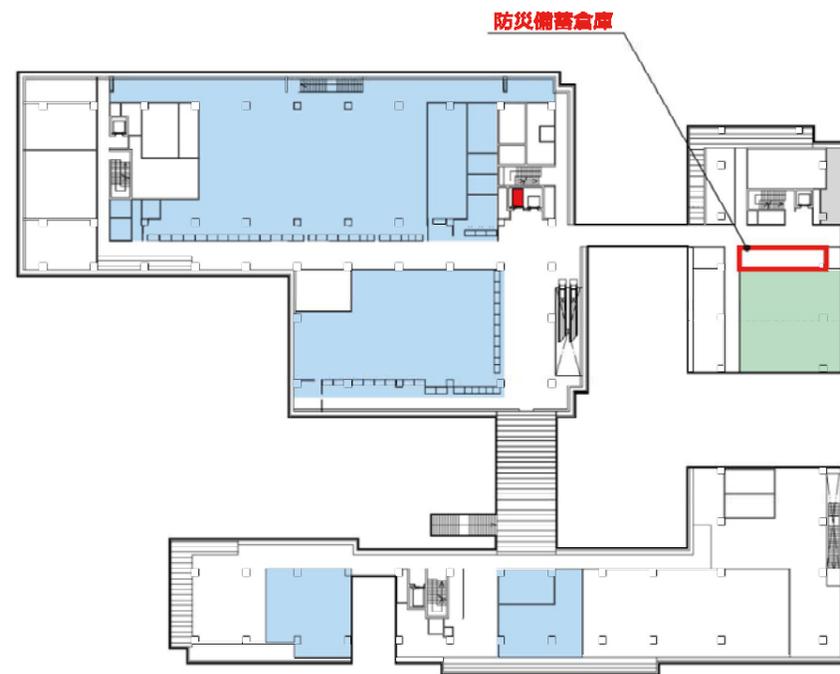
- ・執務エリアの一部を業務継続が可能な行政支援エリアとして計画します。
- ・電気エネルギーを利用できるエリアを限定し、消費を抑える効率的な計画とします。

■ 一般待機エリア

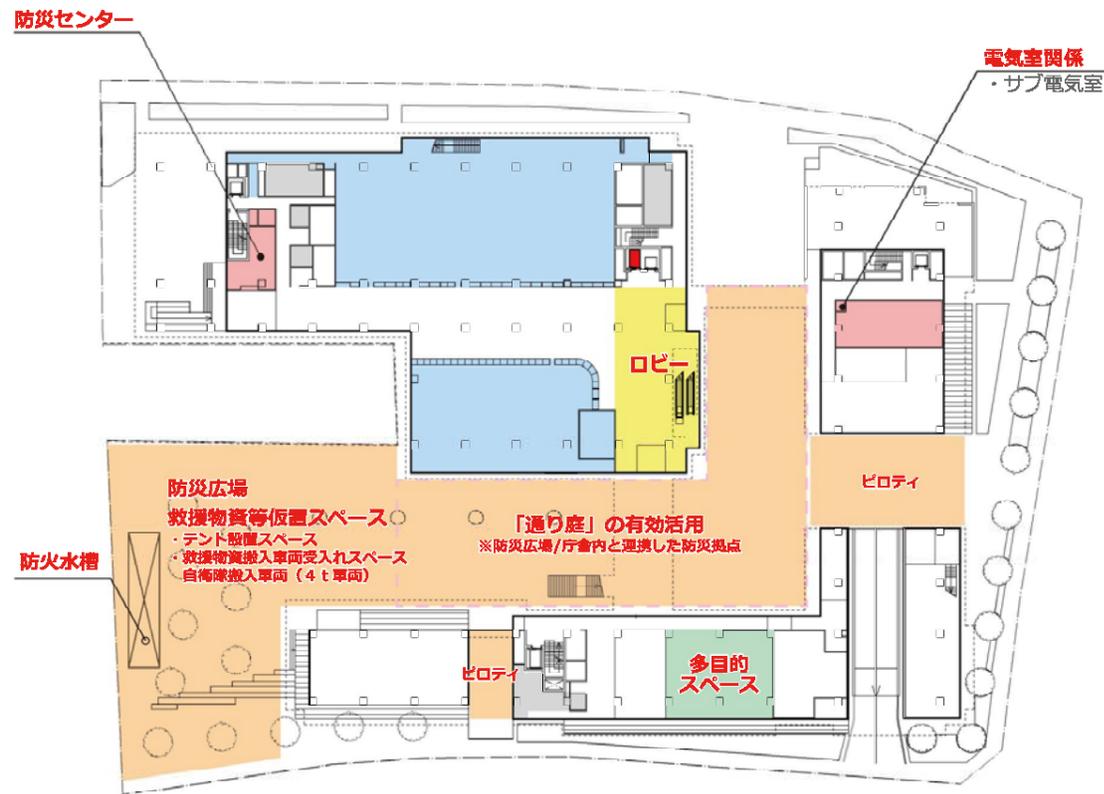
- ・「おもや」1階のロビーは、災害時に在館中の市民が一時的に待機する場所として利用することを想定します。

■ 屋外支援エリア

- ・防災広場とピロティ部分は、災害時に救援物資等の仮置スペースとして活用し、「通り庭」も支援スペースとして有効活用します。



2階



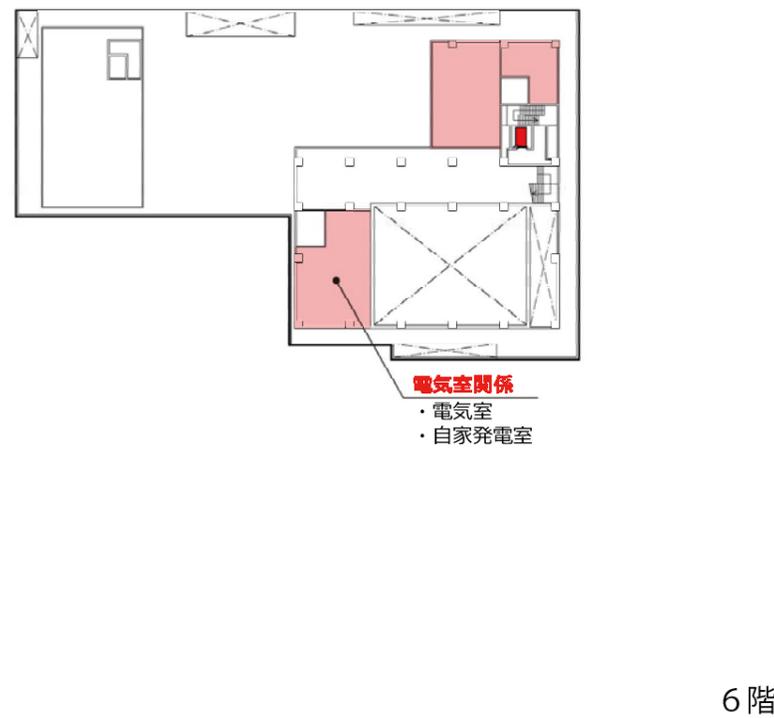
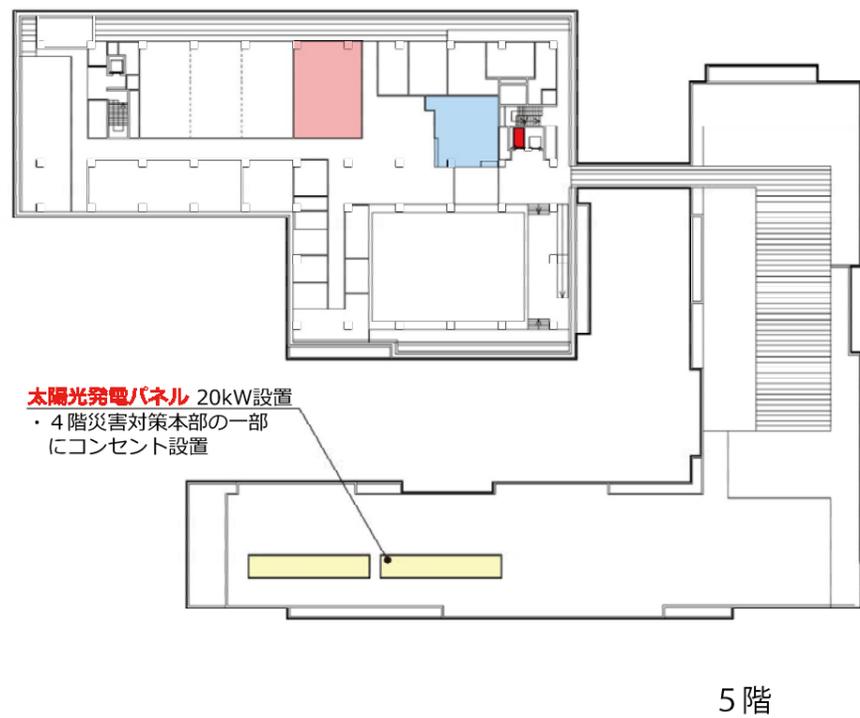
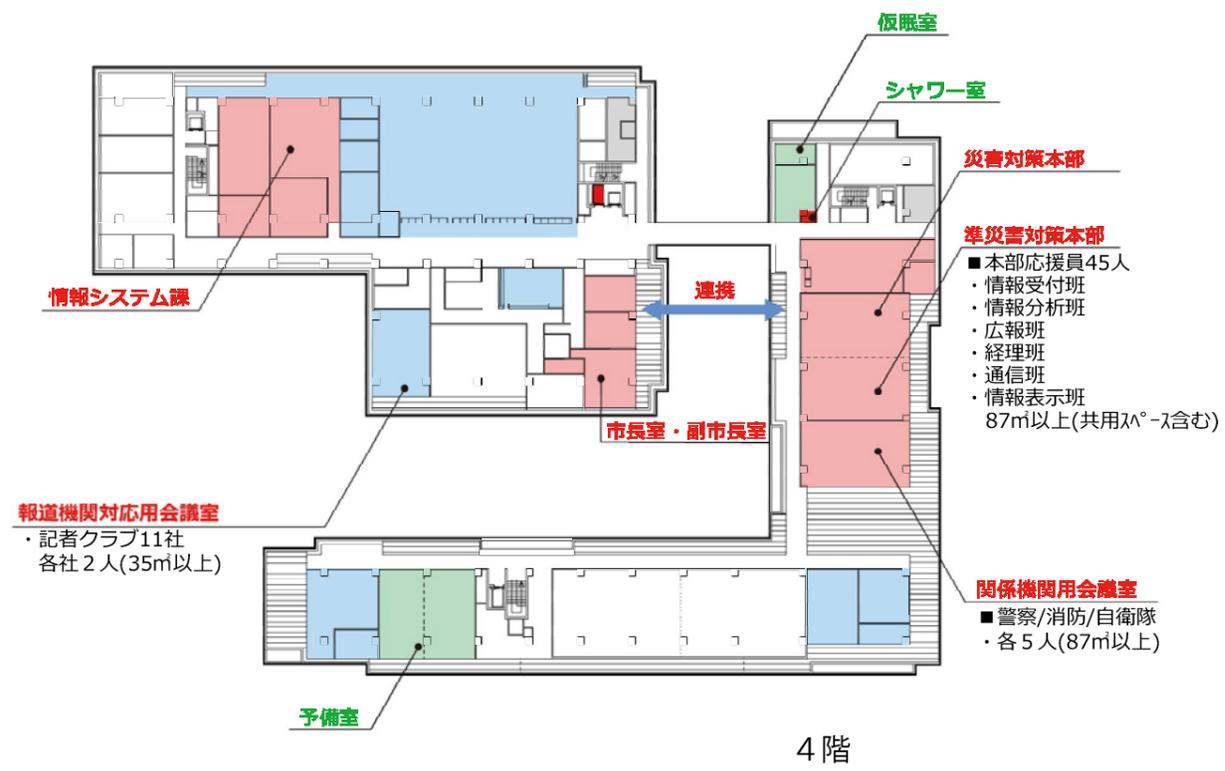
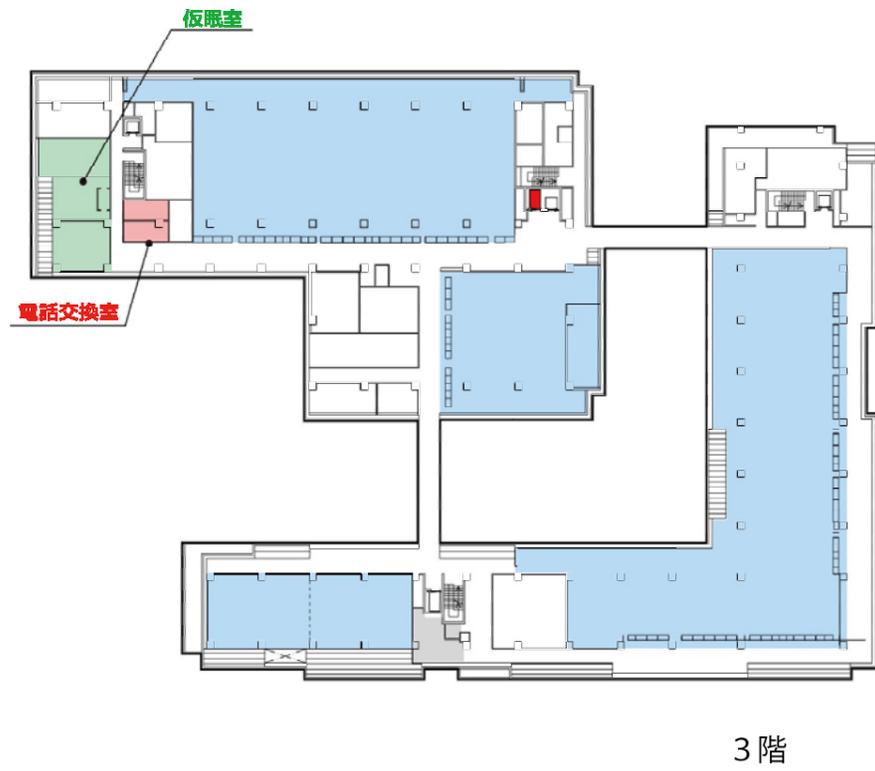
1階

凡例	空調	換気	給湯	給水	ガス	照明	コンセント
災害対策拠点エリア	○	○	—	—	—	50%	100%
災害活動支援エリア	○	○	※※7-室	※※7-室	※※7-室	30%	30%
(地下駐車場)エリア	—	○	—	—	—	30%	一部
行政支援エリア	—	—	—	—	—	30%	30%
一般待機エリア	—	—	—	—	—	30%	一部
エレベーターエリア	—	—	—	—	—	100%	—
トイレエリア	—	○	—	○	—	100%	自動水洗のみ
屋外支援エリア	—	—	—	—	—	—	—

備考 トイレエリアについては、洗浄便座、暖房便座は含んでいません。
「府中市事業継続計画」における『非常時における優先通常業務』がB以上の執務空間とします。
※※7-室 給水のみ確保し、給湯については、電気の復旧又は被害がない場合を想定します。

防災計画

■ 防災計画 ゾーニング図



凡例

- 災害対策拠点エリア
- 災害活動支援エリア
- 行政支援エリア
- 一般待機エリア
- 屋外支援エリア

凡例	空調	換気	給湯	給水	ガス	照明	コメント
災害対策拠点エリア	○	○	—	—	—	50%	100%
災害活動支援エリア	○	○	※シャワー室	※シャワー室	※シャワー室	30%	30%
(地下駐車場) エリア	—	○	—	—	—	30%	一部
行政支援エリア	—	—	—	—	—	30%	30%
一般待機エリア	—	—	—	—	—	30%	一部
エレベーターエリア	—	—	—	—	—	100%	—
トイレエリア	—	○	—	○	—	100%	自動水洗機のみ
屋外支援エリア	—	—	—	—	—	—	—

備考 トイレエリアについては、洗浄便座、暖房便座は含んでいません。
 「府中市事業継続計画」における「非常時における優先通常業務」がB以上の執務空間とします。
 ※シャワー室 給水のみ確保し、給湯については電気の復旧又は、被害がない場合を想定します。

環境計画

環境計画・・・「環境との共生」周辺環境と調和し、環境負荷低減に配慮した庁舎計画（CASBEE^{※1}におけるAランク以上を目指します）

■新庁舎における環境計画項目

□ライフサイクルコストの低減

ポイント フレキシビリティ、メンテナンス性

□再生可能エネルギーの利用

ポイント 太陽光発電、雨水貯留槽、井水利用

□自然エネルギーの効率的な活用

ポイント 自然通風、自然光のコントロール、緑化

□高効率機器の採用

ポイント LED照明、空調負荷の低減

□ライフサイクルコストの低減

- ・スケルトンインフィル^{※2}型の施設構成により、組織の変更に対応するフレキシビリティのある計画とします。
- ・メンテナンス性と耐久性に優れた素材や工法を用いて計画し、将来を見据えた機能更新に対応しやすい計画とします。

□再生可能エネルギーの利用

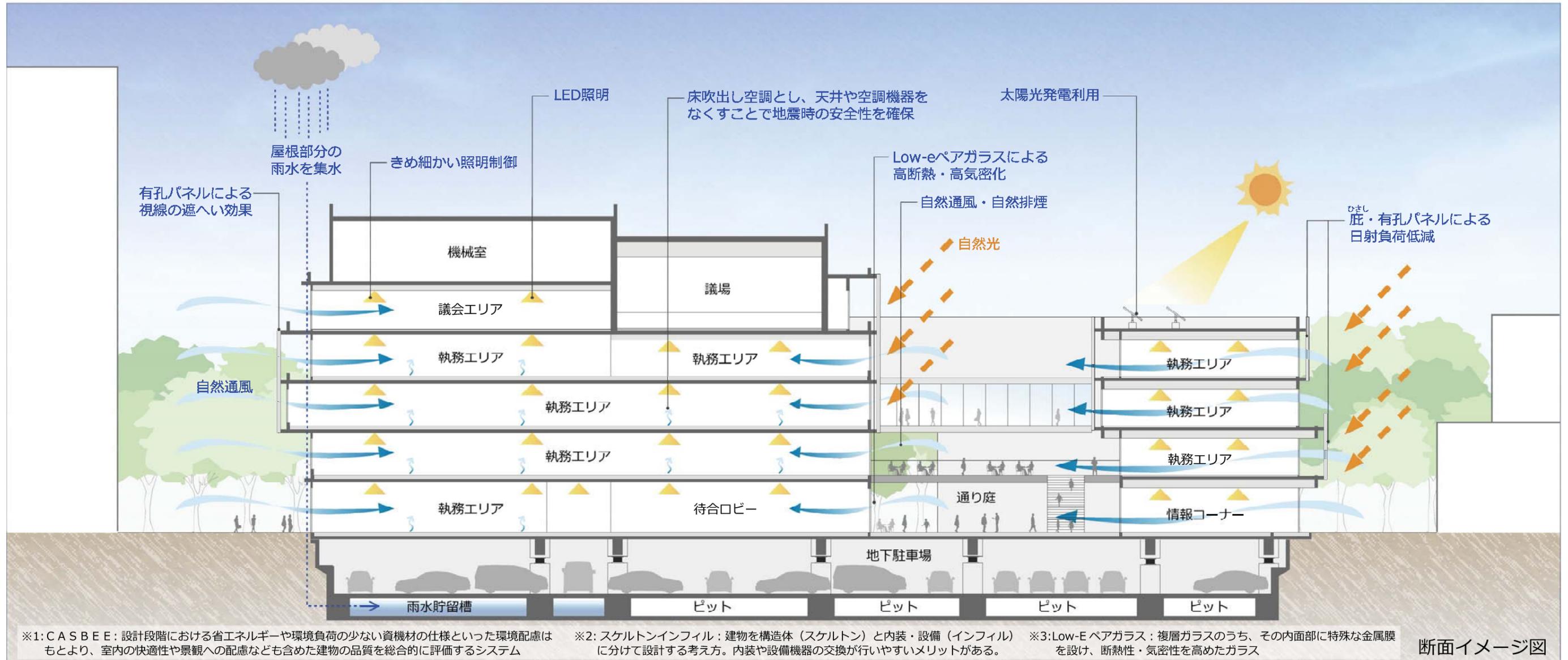
- ・「はなれ」の屋上に太陽光発電設備を計画します。停電や災害時には自立運転により日中の利用を可能とします。
- ・地下駐車場下部のピットに雨水貯留槽を設置し、屋根部分より集水した雨水を雑用水として利用します。
- ・ろ過設備を設置し、井水の利用を計画します。平常時は飲料用として利用することで、省資源化に寄与し、災害時にも有効に活用できる計画とします。

□自然エネルギーの効率的な活用

- ・敷地内に風の通り道をつくり、建物の自然通風を促します。
- ・執務エリアや待合スペースに庇^{ひさし}や有孔パネルによって適度にコントロールした自然光を取り込みます。
- ・地上部を積極的に緑化するとともに、屋上の一部についても緑化し、ヒートアイランド現象の抑制に寄与します。

□高効率機器の採用

- ・全館LED照明で計画し、明るさと視環境に配慮した計画とします。照明制御盤により、中央での照明管理を可能とします。また、人感センサー、昼光センサー等の採用により省エネルギー化を図ります。
- ・ガラスについては、Low-eペアガラス^{※3}による高断熱と高气密化で空調負荷を低減します。



※1: CASBEE: 設計段階における省エネルギーや環境負荷の少ない資機材の仕様といった環境配慮はもとより、室内の快適性や景観への配慮なども含めた建物の品質を総合的に評価するシステム

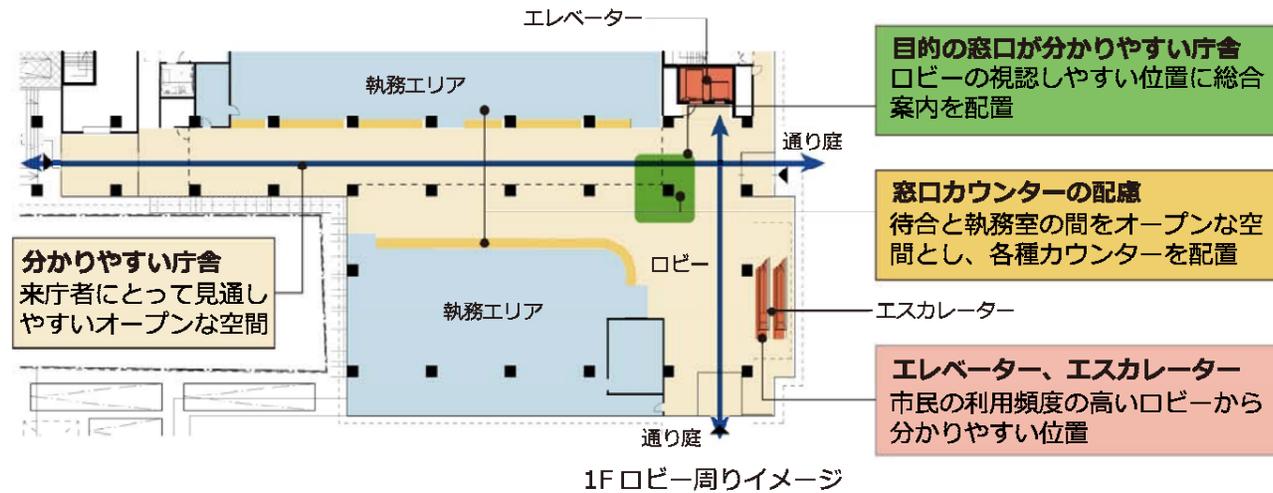
※2: スケルトンインフィル: 建物を構造体(スケルトン)と内装・設備(インフィル)に分けて設計する考え方。内装や設備機器の交換が行いやすいメリットがある。

※3: Low-Eペアガラス: 複層ガラスのうち、その内面に特殊な金属膜を設け、断熱性・高气密性を高めたガラス

断面イメージ図

ユニバーサルデザイン計画

- 誰もが安心して利用できる施設計画
 - ・誰もが利用しやすく快適な庁舎とするため、「府中市ユニバーサルデザインの5つの視点」^{※1}に基づいたユニバーサルデザインの実現を目指します。
- ゆとりのある通路幅
 - ・敷地内の通路や庁舎内の廊下は極力段差のない構造にするとともに、歩行者と車椅子利用者に配慮したゆとりのある幅員を確保します。
 - ・主要な来庁者動線となる「通り庭」に面して出入口を設け、庁舎内へスムーズにアクセスできる計画とします。
- 目的の窓口が分かりやすい庁舎
 - ・各課の待合と執務室の間をオープンな空間とし、来庁者にとって見通しやすく、サイン計画も含めて、分かりやすい計画とします。
 - ・総合案内はロビーの視認しやすい位置に設け、初めての来庁者がスムーズに目的の場所へ移動できるように配慮します。
- 窓口カウンターの配慮
 - ・窓口カウンターは、部署ごとの特性に応じて、ハイカウンター・ローカウンターで適宜構成し、高齢者や車椅子利用者も利用しやすい計画とします。
- バリアフリー対応のエレベーター
 - ・かごの広さは、車椅子利用者と介護者が同時に入ることが可能な計画とし、十分な広さを確保します。（その他昇降機計画参照）
- 1階と2階を結ぶエスカレーター
 - ・市民の利用頻度の高い1階と2階を結ぶエスカレーターは、ロビーから分かりやすい位置に計画します。



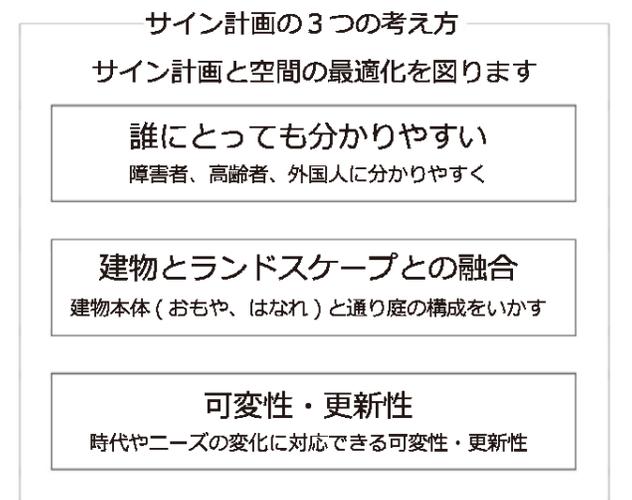
- 多目的トイレ
 - ・各階に誰もが利用できる多目的トイレを設置します。
 - ・フロアごとの利用者層を考慮し、多様な要求に対応できるトイレ計画とします。1階には親子トイレ、重度障害者用トイレを設置します。
- 授乳室・キッズコーナー
 - ・授乳室及びキッズコーナーを適所に設け、子ども連れの利用者も安心して利用できる計画とします。
- 障害者等用駐車場
 - ・地下駐車場の「おもや」「はなれ」の各棟にアクセスできるエレベーターに近接して障害者等用駐車場を整備し、安全な動線を計画します。



※1: 5つの視点: 「府中市福祉のまちづくりユニバーサルデザインガイドライン」に示された、福祉のまちづくりを進めるための5つの視点(公平・簡単・安全・機能・快適)を指す。

サイン計画

- 誰にとっても分かりやすい建物と融合するサイン計画
 - ・障害者や高齢者にとっても分かりやすい庁舎とするため、場所ごとに必要な情報の仕分けを行い、デジタルサイネージ、アナログサイネージなど、様々なサイン形式を適切な位置に計画します。
 - ・多くの来庁者が安心して利用できる施設として、点字や、音声案内の設置、外国語を併記したサインの設置を計画します。
 - ・新庁舎は「通り庭」を挟んで「おもや」と「はなれ」が建ち並ぶ分かりやすい構成です。建物とその構成をいかに誰にとっても分かりやすいサイン計画とします。
 - ・常設のサインのみでなく、臨時的な窓口など、その時々で必要なサインとして利用できる可動サインについても計画します。



昇降機計画

- 来庁者が分かりやすく、職員が利用しやすい昇降機計画
 - ・26人用を2基、15人用を3基計画し、いずれもバリアフリーに適合した機器を選定します。また、エスカレーターを2基設け、利用しやすい位置に計画します。
- 1. エレベーター
 - 「おもや」3基(26人用:1基・15人用:2基) 「はなれ」2基(26人用:1基・15人用:1基)
 - ・26人乗りのエレベーターを2基設置し、車椅子利用者だけでなく、担架やストレッチャーに対応するとともに、点字表示や電光表示、音声案内設備を設置します。
- 2. エスカレーター
 - 「おもや」2基(上り1基、下り1基)
 - ・利用者の多い「おもや」1~2階間にエスカレーターを設置します。幅600mmのタイプを選定し、追越し等を未然に防ぎ、利用者の安全に配慮します。



3. 各昇降機計画の役割・概要

- 1 職員のバックヤード動線 市民も利用可能
- 2 庁舎の中心となる利用者の主動線 救助用ストレッチャー対応 (災害時稼働)
- 3 「おもや」の中心となる利用者の主動線として計画
- 4 「はなれ」の中心となる利用者の主動線として計画 救助用ストレッチャー対応
- 5 「はなれ」は南北に長い為、4を補完する役割として計画
- 6 利用者の多い1階と2階を結ぶ動線として計画

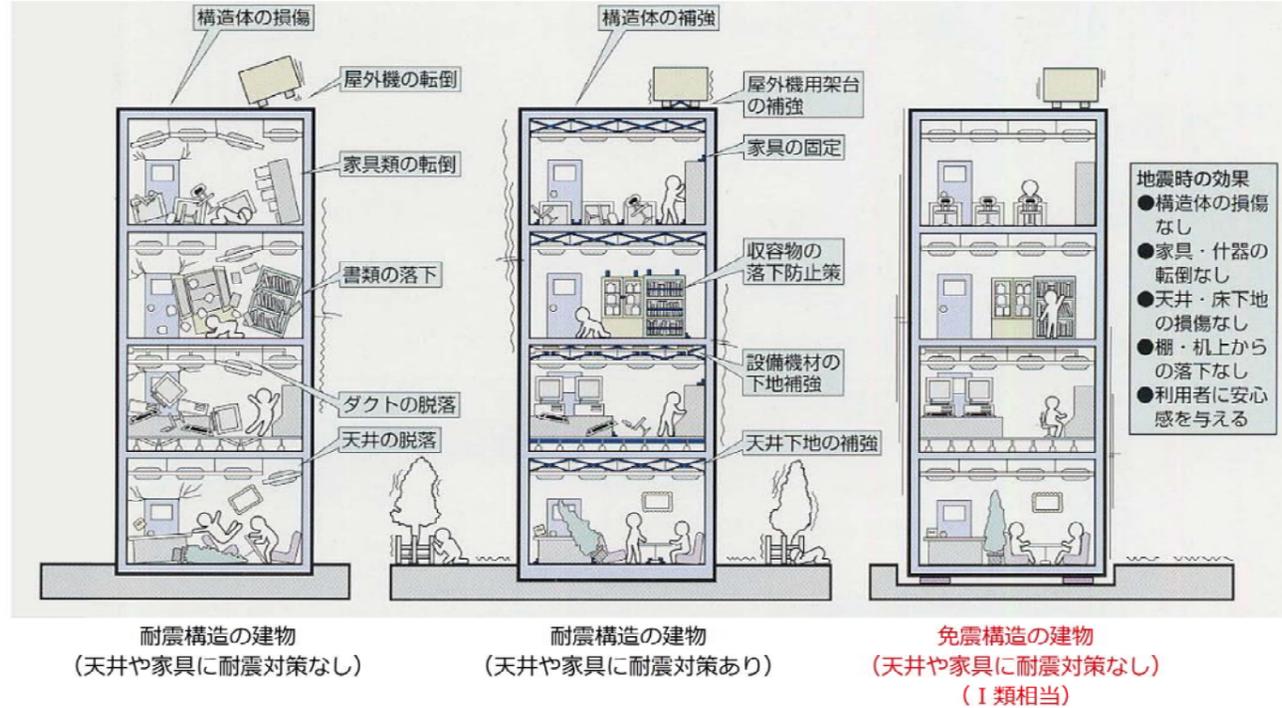


構造計画

□構造計画の考え方

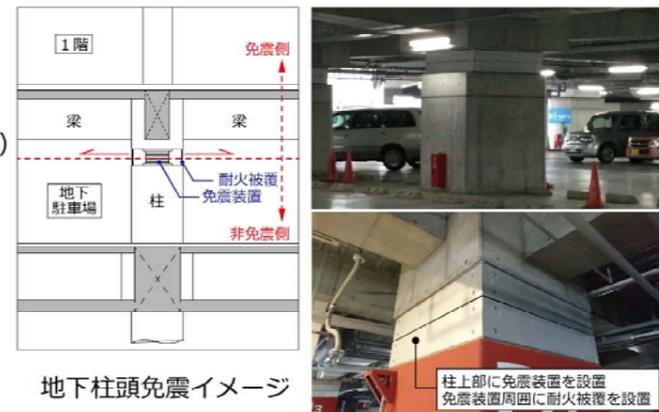
1. 基本方針

- ・新庁舎の構造は、災害時に災害対策活動拠点施設としての機能を発揮し継続して庁舎機能を維持できる「免震構造」を採用し、「官庁施設の総合耐震計画基準」で定められている耐震安全性の分類（Ⅰ類・A種・甲類）を確保します。
- ・免震装置は地下1階柱頭に設置し、免震ピットを地下駐車場として有効利用する「柱頭免震構造」とします。



2. 構造計画概要

- ① 規模 : 地上6階
- ② 免震層 : 地下1階柱頭 (中間免震)
- ③ 構造種別 : 免震上部/鉄筋コンクリート造 (一部プレストレストコンクリート造)
免震下部/鉄筋コンクリート造
- ④ 構造形式 : 純ラーメン構造
- ⑤ 基礎形式 : 杭基礎 (杭長: 16m)

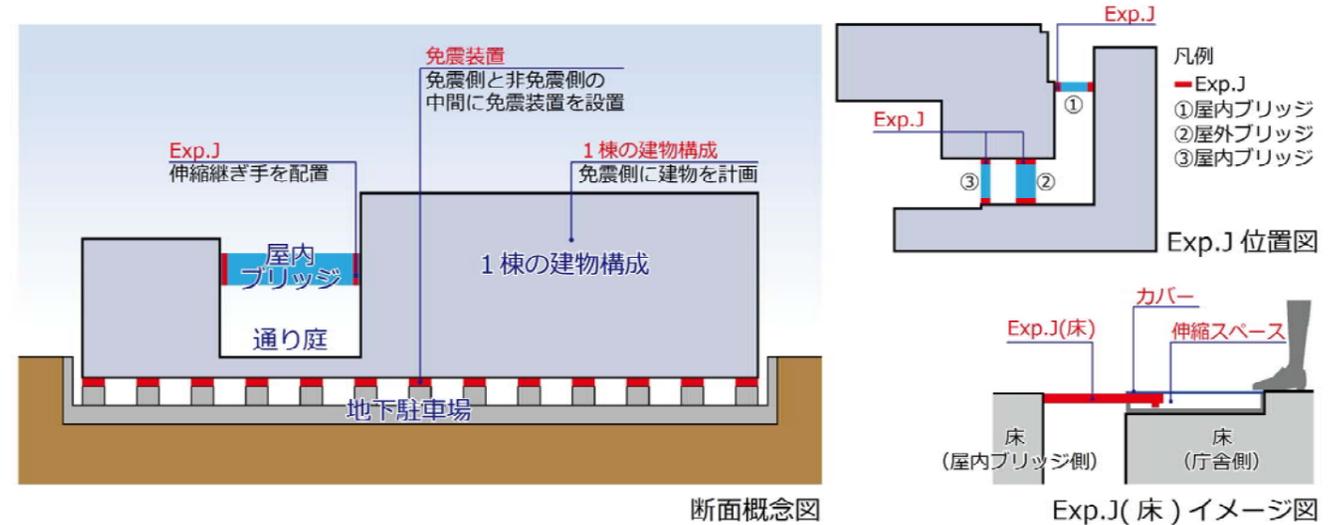


3. 耐震設計概要

- ・地震動の大きさは、「稀に発生する地震動」、「極めて稀に発生する地震動」、「余裕度検証用の地震動」の3段階のレベルを設定し、建物の耐震安全性を確認します。
- ①「稀に発生する地震動」とは、建物の耐用年数中に1度以上遭遇する可能性がある地震動の強さで、震度5弱程度を想定しています。
- ②「極めて稀に発生する地震動」とは、建物の耐用年数中に1度遭遇するかもしれない地震動の強さで、震度6強程度を想定しています。
- ③「余裕度検証用の地震動」として、震度6強～7が想定される立川断層帯地震について想定します。

4. 「おもや」「はなれ」の構造構成

- ・「おもや」「はなれ」は1階の床でつながる1棟の構成です。
- ・地上階では屋外・屋内ブリッジにより各棟を接続しています。
- ・接続部分には、Exp.J(エキスパンションジョイント:伸縮継ぎ手)を設け、建築物を構造的に分離し、建築物相互が温度変化による膨張や収縮、振動周期の違い、地震による振動などによる力学上有害な影響を及ぼし合わない計画としています。



5. 免震装置の種類

- ・使用する免震装置はそれぞれの特徴に応じて組み合わせることで効率的な免震効果が得られる計画とします。

【免震装置の種類】

RB 天然ゴム積層ゴム アイソレータ	・天然ゴムと鋼板の薄板を多層に重ね合わせたもので、鉛直方向に高い剛性、水平方向に柔らかい剛性を有しており、線形性に富んでいる ・エネルギー吸収能力はないので、他のダンパーと組み合わせることで様々な設定が可能である	
LB 鉛 (又は錫) プラグ入り 天然ゴム積層ゴム アイソレータ	・中央に設けられた円形の中空孔に鉛 (又は錫) を封入し、水平変形時に鉛の塑性変形によりエネルギーを吸収するダンパー内蔵型の積層ゴム ・ダンパーが一体型であるため、省スペースで施工上の利点がある	
EB 弾性滑り支承	・端面にテフロン樹脂のすべり材がついた積層ゴムとすべり板 (ステンレス板に表面処理したもの) を組み合わせた支承 ・小変形時は積層ゴムが変形し、変形が大きくなるとすべり板の上を水平移動し変形に追従する	
CL 転がり支承	・ボールベアリングを用いたスライダーを十字に組み合わせたもので、摩擦係数が極めて小さいため、免震層の長周期化が図れる ・引抜き抵抗力があるため、引抜きが生ずる箇所にも使用できる	
OD オイルダンパー (速度依存型 ダンパー)	・オイルが密閉されたシリンダーの中をピストンが押し引きされる際に生ずる減衰力によりエネルギーを吸収する ・吸収したエネルギーは熱として放出される	

電気設備計画

- 省エネルギー・環境に配慮した施設づくり
 - LED 照明主体の計画とし、照明制御、高効率な電気機器を導入することで、消費電力削減に努めます。
 - 自然エネルギーを活用した太陽光発電を導入することで、環境に配慮した計画とします。
- 維持管理に配慮した施設づくり
 - 汎用品の機器を選定するとともにメンテナンススペースを考慮した配置とし、日常の保守メンテナンスと将来の機器更新に配慮した計画とします。
- 機能性・安全性に配慮した施設づくり
 - コンセントや LAN 配線は利用者の形態に合わせた計画を行い、使いやすい設備を構築します。
 - 災害時もエネルギーの確保に努め、事業継続が可能な施設とします。また、自然エネルギーも活用し長期的な活動の拠点として計画します。

□電気設備概要

【おもや】【はなれ】

1	電力引込み	3φ3W 6.6kV 2回線受電(本線・予備電源方式)
2	受変電設備	配電盤形式：屋内キュービクル型
		変圧器：2014年トッランナー モールド式
3	直流電源装置	配電盤形式：屋内キュービクル型
		蓄電池：長寿命型 MSE 蓄電池(非常照明+受変電操作用)
4	自家発電設備	エンジン形式：ディーゼル
		燃料：A重油(3日間対応)
5	太陽光発電設備	設備容量：20kW程度
6	幹線・動力設備	配線方式：ケーブルラック 配管
		配電電圧：(電灯負荷)1φ3W200V/100V (動力負荷)3φ3W200V
7	照明設備	照明器具：LED照明
		照明制御：人感センサー 明るさセンサー スケジュール制御
8	コンセント設備	OAフロア内ブロックコンセント OAコンセント(執務室)
9	雷保護設備	外部雷保護設備 内部雷保護設備
10	通信設備	電話設備 LAN設備 時刻表示設備 映像音響設備 議場・委員会室設備 インターホン設備 緊急呼出設備 テレビ共同受信設備 出退表示設備 デジタルサイネージ設備 防犯カメラ設備 防犯・入退室管理設備 駐車場管制設備
11	防災設備	非常照明設備 誘導灯設備 非常放送設備 自動火災報知設備

機械設備計画

- 自然の恵みを有効に活用し、環境と共生した施設づくり
 - 中央熱源を採用するエリアは、外気取入れ量を可能な限り多くし、中間期の冷房需要にも外気冷房で対応できる計画とします。
 - 雨水利用と井水利用を採用し、省資源化に努めます。
- 防災・災害復興拠点として、災害時でも機能が継続できる施設づくり
 - さく井設備の採用による水源の多重化や災害時緊急汚水槽を設置するなど、災害時も庁舎機能を確保し、事業継続が可能な施設とします。
- 日常の維持管理が容易な設備計画とし、建物運用による更なる省エネルギー化が図れる施設づくり
 - 設備システムの保守管理機能の向上、省エネルギーと快適性との調和を目的に BEMS^{※1}を導入し、ライフサイクルコストの低減に努めます。
 - 設備機器は汎用性がある機器を採用します。

□空気調和設備概要

【おもや】

1	熱源設備	空冷ヒートポンプモジュールチラー
2	空気調和設備	執務室 空調機 床吹き出し方式
		議場 空調機 床・壁併用吹き出し方式
		会議室等 全熱交換器 空冷ヒートポンプパッケージ空調機(GHP)
3	換気設備	第1種換気方式 第3種換気方式
4	排煙設備	自然排煙を主体に計画
5	自動制御設備	中央監視装置(発停操作 警報監視 計量・計測表示) BEMS

【はなれ】

1	空気調和設備	執務室 全熱交換器 空冷ヒートポンプパッケージ空調機(GHP)
		会議室等 全熱交換器 空冷ヒートポンプパッケージ空調機(GHP)
		災害対応諸室 全熱交換器 空冷ヒートポンプパッケージ空調機(EHP)
2	換気設備	第1種換気方式 第3種換気方式
3	排煙設備	自然排煙を主体に計画
4	自動制御設備	中央監視装置(発停操作 警報監視 計量・計測表示) BEMS

□給排水衛生設備概要【おもや】【はなれ】

1	給水設備	上水(都水)：上水受水槽からの加圧給水方式(非常電源対応)
		井水(平常時飲用) 雑用水(都水・雨水)：雑用水槽(地下二重ピットを利用)からの加圧給水方式(非常電源対応) 井水(非常時雑用水)
2	給湯設備	局所式給湯(厨房：ガス瞬間湯沸器 給湯室・多目的トイレ：貯湯式電気温水器)
3	排水設備	屋内：汚水・雑排水合流方式 屋外：汚水・雑排水合流方式
4	都市ガス設備	低圧ガス引込み(都市ガス種類 13A)
5	衛生器具設備	節水型大便器 低リップ型小便器 オストメイト対応器具他
6	消火設備	屋内消火栓設備 屋外消火栓設備 連結送水管設備 連結散水設備
		不活性ガス消火設備 消火器

※1：BEMS：Building Energy Management Systemの略で、ビル管理システムを指す。



ちようかん
①鳥瞰イメージパース（敷地南西側より）



②外観イメージパース（府中街道側より）



③外観イメージパース（大國魂神社側より）



④外観イメージパース（府中街道 北西側より）



⑤外観イメージパース（2階屋外ブリッジ南側より）



⑥内観イメージパース（おもや1階通路を東側より）



⑦内観イメージパース（おもや3階通路を西側より）